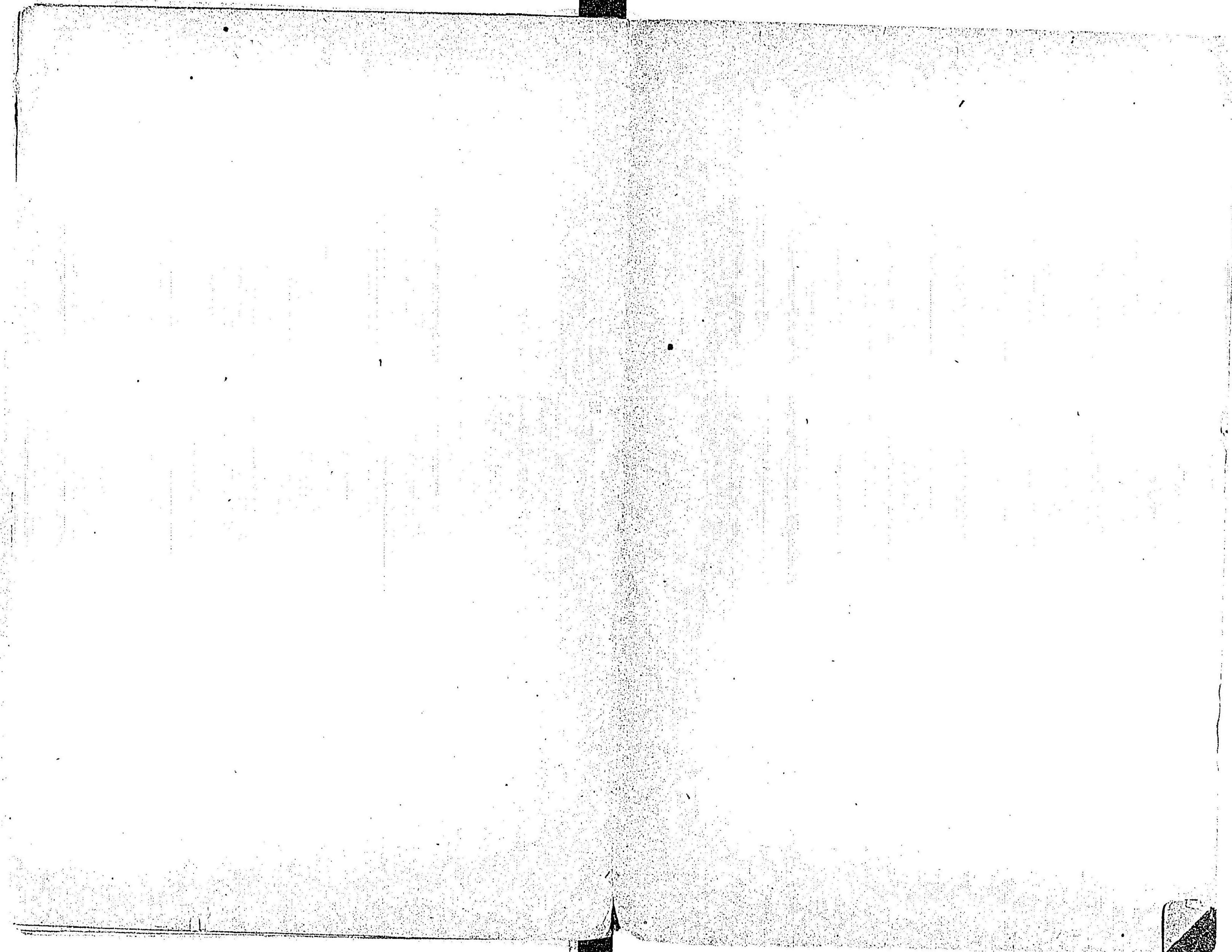


辯護士 勝目新平先生監修
警察講法會編輯局編纂

市民法規顧問 寶典

警察講法會藏版



第15
460

市民
寶典
法規顧問

辯護士
法學士
勝目新平先生監修
警察講法會編輯局編纂

警察講法會藏版

43.8.26
內交

CZ
1113
37-02

緒言

本書は、東京市民が、日常必ず接觸すべき、諸法令、即中央
官府制定の法令及警視廳、東京府、頒布の廳令府令等を
類別蒐輯したるもの。

其知らざるを以て、不幸を招致せざる機、即市民諸氏の保護者として編纂せし
の、此小冊子にして、其目的に副ふを得ば、編者は實に望外の榮なり。
一地方に關してのみの法規を上梓せしもの、實に是れ本書之が嚆矢。

本書編纂に就ては、菊地氏の助力多大なりしは、特に茲
に謝するところなり。

明治四十三年八月

警察廳法令編輯局を代表して

平 説 生

市民
寶典

法規顧問目次

行政之部

- 一 行政執行法.....一
- 一 行政執行法施行令.....三
- 一 警察犯處罰令.....五

營業之部

- 一 質屋取締法.....一
- 一 質屋取締細則.....四
- 一 質屋取締法令施行規則.....六
- 一 古物商取締法.....二
- 一 古物商取締法細則.....二
- 一 古物商取締法令施行規則.....八
- 一 雜業取締規則.....三六

目次

一

- 一 宿屋營業取締規則……………三〇八
- 一 宿泊届其他ノ件……………五二
- 一 湯屋營業取締規則……………五五
- 一 客ノ來集ヲ目的トスル浴湯ニ於テ十二歳以上ノ男女混浴セシメサル件……………六〇
- 一 雇人口入營業取締規則……………六一
- 一 代書業取締規則……………七〇
- 一 鍛冶鑄物及鑄掛工場取締規則……………七三

衛生之部

- 一 種痘法……………七七
- 一 種痘法施行規則……………八一
- 一 未成年者喫煙禁止法……………九〇
- 一 鍼灸術營業取締規則……………九〇
- 一 清涼飲料水營業取締規則……………九二
- 一 清涼飲料水營業取締ニ關スル施行規則……………九六

- 一 牛乳營業取締規則……………九九
- 一 牛乳營業ニ關スル施行規則……………一〇三
- 一 獸肉營業取締規則……………一〇九
- 一 氷雪營業取締規則……………一一二
- 一 氷雪營業取締ニ關スル施行規則……………一四
- 一 畜犬取締規則……………一八
- 一 畜犬取締ノ件……………二〇
- 一 理髮營業取締規則……………二一
- 一 清潔保持ニ關スル取締規則……………二三
- 一 醫師法……………二八
- 一 醫師法施行規則……………三〇
- 一 齒科醫師法……………三四
- 一 齒科醫師法施行規則……………三六
- 一 醫師藥劑師業務届出規則……………三九
- 一 傳染病豫防法……………四五
- 一 傳染病豫防法施行規則……………五三

- 一 肺結核豫防ニ關スル件.....一五七
- 一 肺結核豫防規則.....一六〇
- 一 肺結核豫防規則ニ關スル件.....一六一
- 一 產婆規則.....一六五
- 一 看護婦規則.....一六八

交通之部

- 一 道路取締規則.....一七三
- 一 電氣鐵道取締規則.....一八一
- 一 自働車取締規則.....一八八
- 一 自轉車取締規則.....二〇〇
- 一 人力車營業取締規則.....二〇二
- 一 人力車取締規則中自用車輓夫遵守條項.....二〇九
- 一 乘合馬車營業取締規則.....二一〇
- 一 乘合馬車取締規則中自用馬車馭者遵守條項.....二一九

風俗之部

- 一 荷車取締規則.....二一九
- 一 演劇取締規則.....二二三
- 一 寄席取締規則.....二三五
- 一 觀物場取締規則.....二四五
- 一 待合茶屋、遊船宿、貸席、料理屋、飲食店及藝妓屋ニ關スル取締規則.....二五一
- 一 藝妓營業取締規則.....二五二
- 一 藝妓口入營業取締規則.....二五四
- 一 貸座敷、引手茶屋、娼妓取締規則.....二六〇
- 一 娼妓取締規則.....二六八

雜之部

- 一 廳令ノ罰則ニ關スル件.....二七一

附錄之部

一 諸願屆様式

目次終

市民法規顧問

法學士 勝目新平先生監修
警察講法會編纂

行政之部

行政執行法

明治三十三年六月 法律第八四號
明治四十三年四月十二日 法律第五二號改正(一)

第一條 當該行政官廳ハ泥酔者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戎器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行、鬪爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス 但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル

行政執行法

場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケスシテ治癒ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス 但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ(五)

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲コトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス 但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ

又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス 第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

◎行政執行法施行令

明治三十三年六月 勅令第二五三號

第一條 廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

前項設備ニ要スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條 生命、身體若ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ掲クル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健

廢ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一 崩壊又ハ人ヲ陥落セシムルノ虞アル場所

二 家屋其ノ他ノ工作物

三 船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四 汽關、汽機及其ノ附屬裝置

五 前各號ニ掲クタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 各省大臣 二十五圓
二 廳府縣長官 十圓
三 其ノ他ノ行政官廳 二圓

一 各省大臣

二 廳府縣長官

三 其ノ他ノ行政官廳

第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ

前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス 但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ強制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條、第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

附 則

警察犯處罰令

明治四十一年九月 內務省令第十六號

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅建造物及船舶内ニ潜伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

警察犯處罰令

五

- 四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事務又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其申込ヲ求メタル者
- 八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十 自己占有ノ場所内ニ老幼不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 十一 前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者
- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十四 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十五 劇場寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十六 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十七 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者

- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑シタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花莖ヲ採折シタル者
 - 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
 - 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
 - 三十二 他人ノ身體物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛澆シ又ハ放射シタル者
 - 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者
 - 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
 - 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
 - 三十六 不熟ノ果物腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
 - 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者
 - 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼裸體シ又ハ臀部股部ヲ露ハシ其ノ醜態ヲ爲シタル者
 - 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
 - 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
 - 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
 - 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者

- 七 開業ノ醫師產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
 - 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
 - 九 炮煮、洗滌、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケヌ店頭ニ陳列シタル者
 - 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
 - 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
 - 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ喚シ又ハ驚逸セシメタル者
 - 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
 - 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
 - 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚瀆シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札招牌、賣貸家札其ノ地標標ノ類ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者
 - 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スル虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 第四條** 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

營業之部

質屋取締法

明治二十八年三月
法律第一四號

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同

廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ノ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラントスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權
利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ
申告スヘシ

第四條 住所氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス 但住所氏名ノ詳
カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ
帳簿質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方

質屋取締法

一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若クハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アルト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸

到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ預置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ停止セラレタルトキト雖其以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品ノ帳簿ヲ毀損亡失シ

タル者

- 二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止中ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者
- 第二十三條 第一條第二項第二條第三條第四條第五條第一項及第二項第六條第七條第一項第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス
- 第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其責ニ任ス
- 第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

- 第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス 但沖繩縣ニ施行セス
- 第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質屋契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス
- 第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎質屋取締法細則

明治二十八年七月 內務省令第九號

第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監 北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ 警視總監北海道廳長官府縣(東京府ヲ除ク)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長島

司地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得 但營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ヲ禁止 若ハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ 但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ 但相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額質物ノ種類員數番號年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命

●質屋取締法令施行規則

明治二十八年八月
總令第二〇號

第一條 質屋取締法第一條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ 但支店開設ノ願書ニハ住所氏名及支店所在地ノ外記載スルヲ要セス

- 一 族籍住所氏名年齢並從前ノ職業
- 一 族籍住所氏名ニ異動アリタル者ハ舊族籍住所氏名並現在地ニ移轉シタル年月日

一 店舗ノ所在地

第二條 管理人ノ届書ニハ其族籍住所氏名年齢並從前ノ職業及管理スヘキ支店並質屋取締法第十九條ニ牴觸セサルモノタルコトヲ明記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ 管理人ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ前項ノ手續ニ依リ届出ヘシ

第三條 營業者ハ第一號様式ニ據リ看板ヲ調製シ店頭見易キ場所ニ掲出スヘシ

第四條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製シ第二號第三號様式ニ據リ物品ノ種類品質模樣員數

番號貸金額質入受戻利拂流質賣却年月日並質置主買主ノ住所氏名等ヲ詳記シ其出入ヲ明ニスヘシ

一 質物臺帳

一 流質物賣拂帳

第五條 帳簿ハ新調若クハ變換ノ都度紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ 帳簿廢棄ノ許可ヲ受ケントスル者ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出其帳簿ニ奥書ヲ請フヘシ

第六條 質札及通帳ハ第四號第五號様式ニ據リ調製スヘシ

第七條 品觸寫書ハ番號ヲ追テ順次別冊ニ編綴スヘシ

第八條 質屋取締法第六條ノ事項ハ設定變更ノ都度所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警察視廳ニ届出ヘシ 但營業組合アルモノハ其組合取締ヨリ届出ルコトヲ得

第九條 質屋取締法第一條第二項質屋取締法細則第三條ノ届書ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

第十條 質屋取締法細則第六條ノ届書ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

第十一條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ加名者及取締ノ氏名ヲ記シ組合規約書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警察視廳ヲ届出ヘシ 其届出事項ヲ變更増減シタルトキ亦同シ

第十二條 小笠原島伊豆七島ニ於テハ質屋取締法質屋取締法細則及本則ノ規定ニ係ル願届ハ小笠原島ニ在テハ島司ニ伊豆七島ニ於テハ地役人ニ地役人アラサル地ニ在テ

ハ名主ニ之ヲ爲スヘシ
 第十三條 第二條第二項第三條第四條第五條第一項第六條第七條及第八條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條 從來ノ營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄從前使用ノ帳簿ヲ襲用スルコトヲ得
 第一號様式 看板

何郡何町何番地
屋號

質屋 氏名

支店ヲ設クルモノハ其住所氏名ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

何郡何町何番地
何郡何町何番地
何郡何町何番地
何 某 支店

第二號様式質物臺帳 (要領)

番號	入質月日	第一號 何月何日	第二號 何月何日	第三號 何月何日	第四號 何月何日
貸金	受戻及利拂並 流質年月日	金圓	金圓	金圓	金圓
質品目及員數	何年何月何日 利拂	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
質入主住所氏名	一樂鼠萬筋男羽織裏花色絹	紺博多無地男帶	紺博多無地男帶	紺博多無地男帶	紺博多無地男帶
何郡何町何番地	何郡何町何番地	何郡何町何番地	何郡何町何番地	何郡何町何番地	何郡何町何番地
何 某	何 某	何 某	何 某	何 某	何 某
同 人	同 人	同 人	同 人	同 人	同 人
同 人	同 人	同 人	同 人	同 人	同 人
同 人	同 人	同 人	同 人	同 人	同 人

- 一 野ノ區劃ハ大小其便宜ニ依ルヘシ第三號帳簿亦同シ
- 二 番號ハ一箇年毎ニ新タニ付スヘシ
- 三 一回住所氏名ヲ詳記シタルトキハ其以後ニ於テハ單ニ氏名ノミヲ記スルモ妨ケナシ第三號帳簿亦同シ
- 四 證人ヲ要シタルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其事由ヲ住所氏名ノ欄内ニ記スヘシ
- 五 一箇年以上襲用スル帳簿ハ一箇年毎ニ區別ヲ爲シ置クヘシ第三號第四號帳簿亦同シ

第三號樣式 流質物賣拂帳 (暨帳)

第 年 何 號 第 四 何 號 第 何 號	價 金	流 質 品 目	讓 受 主 住 所 氏 名
何 號	何 圓	黑羅紗「モーニングコート」 一 枚	何 郡 何 町 番 地 氏 名
何 月 何 日			賣 拂

第四號樣式 通帳

第 何 年 何 號 第 何 年 何 號 第 何 年 何 號	金 何 圓	何 何 何	同 人
何 號		何 何 何 二品	

何年何月何日 持參人

一金何圓 何 某

一樂萬筋男羽織 一枚

紺博多男帶 一筋

〆二品

- 一 表紙ノ裏面ニハ質屋取締法第六條ノ事項ヲ記載スルコトヲ得
- 二 番號ハ通帳ヲ發スル順次ニ依リ之ヲ表紙ニ付シ其番號年月日及質置主ノ住所氏名ハ更ニ帳簿ヲ製シ記載シ置クヘシ
- 三 用紙細川又ハ美濃紙四ツ折

第五號樣式 質札

質屋取締法施行規則

質札	第何號	何郡何町何番地
	年月日	質屋何某
	一金何圓何拾錢	又ハ支店ヨリ發スルモノ ハ何郡何町何番地某支店 管理人何某ト記載ス
	一何何 一品	
	一何何 一品	
	計二品	

- 一 用紙西ノ内八切
- 二 番號ハ質札ヲ發スル順次ニ依リ之ヲ付シ其番號年月日及質置主ノ氏名ヲ控ヘ置クヘシ
- 三 裏面ニハ質屋取締法第六條ノ項ヲ記載スルコトヲ得

◎古物商取締法

明治二十八年三月
法律第一三號

- 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾分ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ
- 第二條 古物商ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出ツヘシ
- 第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限り其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ツヘシ 但官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニアラス
- 第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
一 古物ノ市場、行商、露店及糶賣
二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換
- 第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ 若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
- 第七條 住所氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス 但住所氏名ノ詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ

買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス
前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施
サシム其命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到
達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其以
前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ
記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ其ノ他帳簿ニ
關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ
受クヘシ

第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病汚染ノ物品アルト認
ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ
帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止
若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商

ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營
業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得
若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第十八條 他ノ營業者ニシテ臨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ
適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シ
タル者

二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第十五條ニ違犯シタル者

第二十條 第三條第四條第六條第七條第八條第十條第十一條及第十二條ニ違犯シタル
者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲メ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス 但沖繩縣ニ施行セス

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物商取締法細則

明治二十八年七月
內務省令第八號

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監北海道廳長官府縣(東京府ヲ除ク)以下之ニ依リ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長島司地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得 但營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ臨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

- 吳服商
- 金物商
- 袋物商
- 小間物商
- 籠甲商
- 時計商
- 飾商
- 書籍商

其他ノ廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二个以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖移轉營業者及後見人ノ族籍住所氏名ノ異動

管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ 但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ 但古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ理由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ 家族又ハ同居ノ雇人ニ限り行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムヘシ 鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ 規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ羅賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條 古物商ハ露店途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

◎古物商取締法令施行規則

明治二十八年八月
廳令第一九號

第一條 古物商取締法第二條及第四條ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

- 一 族籍住所氏名年齢並從前ノ職業
- 一 族籍住所氏名ニ異動アリタル者ハ舊族籍住所氏名並現住地ニ移轉シタル年月日

一 營業物品ノ種類
一 營業所又ハ店舗ノ所在地

第二條 營業物品ノ種類ヲ増加シ又ハ變更セントスル者ハ願書ニ其種類ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

營業物品ノ種類ヲ減少シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ十日以内ニ届出ヘシ

第三條 管理人ヲ置ク者ハ其届書ニ管理人ノ族籍住所氏名年齢並從前ノ職業及其管理スヘキ營業所ハ店舗並古物商取締法第十五條ニ抵觸セサルモノタルコトヲ明記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

管理入ノ族籍住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ前項ノ手續ニ依リ届出ツヘシ

第四條 營業者ハ第一號様式ニ依リ看板ヲ調製シ營業所又ハ店舗ノ足易キ場所ニ掲出スヘシ

第五條 營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製シ第二號乃至第四號様式ニ據リ物品ノ種類品質摸樣員數代價番號年月日並賣買交換等ニ關スル事由ヲ詳記シ其出入ヲ明カニスベシ

- 一 物品買入讓受明細帳
- 一 物品賣拂讓渡明細帳
- 一 物品預リ明細帳

行商露店市又ハ場ノ取引ニ充用スル爲メ特ニ帳簿ヲ調製スルコトヲ得 但其記載方ハ前項ニ依準スヘシ

第六條 帳簿ハ新調若クハ變換ノ都度紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ

帳簿廢棄ノ許可ヲ受クントスル者ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出其帳簿ニ奧書ヲ請フヘシ

第七條 品觸寫書ハ番號ヲ追テ順次別冊ニ編綴スヘシ

第八條 營業者行商又ハ露店鑑札ヲ受ケントスルトキハ願書ニ自己家族又ハ雇人ノ別竝家族雇人ノ族籍氏名年齢ヲ詳記シ第五號様式ノ木札ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ其木札ニ檢印ヲ受クヘシ

露店鑑札ハ店頭ニ標出スヘシ

鑑札面記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ鑑札ヲ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ記シ第一項ノ手續ニ依リ五日以内ニ更正又ハ新木札ニ檢印ヲ願出スヘシ

營業者行商露店ヲ廢シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ鑑札ヲ差出シ檢印ヲ消除ヲ請フヘシ

第九條 古物商取締法第三條第四條第二項及古物商取締法細則第四條第七條第十一條ニ係ル願書ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出スヘシ

第十條 古物商取締法細則第九條ニ係ル願書ハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ差出スヘシ

第十一條 營業者組合ヲ設ケタルトキハ加名者及取締ノ氏名ヲ記シ組合規約書ヲ添へ

所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ其届出事項ヲ變更増減シタルトキ亦同シ

第十二條 小笠原島伊豆七島ニ於テハ古物商取締法古物商取締細則及本則ノ規定ニ係ル願届ハ小笠原島ニ在テハ島司ニ伊豆七島ニ在テハ地役人ニ地役人アラサル地ニ在テハ名主ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條 第二條第二項第三條第二項第四條第五條第六條第七條及第八條第二項第三項第四項ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十四條 從來ノ古物商營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄従前使用ノ帳簿ヲ變用スルコトヲ得

第十五條 従事ノ行商又ハ露店營業者ハ更ニ鑑札ヲ受クルヲ要セス従前ノ木札ヲ以テ行商ヲ爲シ露店ヲ出スコトヲ得 但同居ノ雇人ニアラサル者ノ行商又ハ露店木札ハ明治二十八年九月十五日マテニ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ檢印ヲ消除ヲ請フヘシ

第十六條 從來ノ序店營業者ニシテ尙引繼營業セントスル者ハ古物商取締法第三條竝本則第九條ニ依リ届出従前床店木札ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ檢印ヲ消除ヲ請フヘシ

第十七條 從來ノ古物市場ヲ繼續セントスル者ハ古物商取締法細則第九條ニ依リ更ニ規約ヲ定メ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ

第一號樣式 看板

古物商	書籍	銅鐵	名
何何	何何	何何	何何
何何	何何	何何	何何

長一尺五寸以上

二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルモノハ其住所氏名ノ記載左ノ例ニ依ル

何郡何町何番地

何區何村何番地

屋號 氏

名(營業所)
店(舖)

第二號樣式 物品買賣明細帳(堅帳)

番號	買受日	物品種類品質模樣負數	代價	買拂讓渡 交換ノ 年月日	買拂讓渡 渡人ノ 住所氏名
一	何月何日	黒羽二重鷹ノ羽三ツ紋付 裏花色絹男小袖 一枚	金 何 圓	何月何日	何郡何町何番地 何區何村何番地 氏 名

二	何月何日	春慶塗三組重箱 一箇	金 何 拾 錢	何月何日	何年	何郡何町何番地	同 人
三	何月何日	金側片硝子懷中時計一箇 但何機械何國製番號何何	金 何 圓	何月何日	何年	何郡何町何番地	警察官ノ認可ヲ受ク
四	何月何日	木綿茶堅縞男袴 一枚	自家用ノ處	何月何日	何年	何郡何町何番地	
五	何月何日	淺黃「テレン」服掛掛袴 子 十脚	金何圓何拾錢	何月何日	何年	何郡何町何番地	何區何村何番地 氏 名
六	何月何日	紺傳多片側茶無地男帶一筋	何年四號ト交換			何郡何町何番地	何區何村何番地 氏 名
七	何月何日	銘仙茶堅縞裏花色絹男綿 入 一枚	金 何 圓	何年何月 崩ス		何郡何町何番地	何區何村何番地 氏 名

- 一 野ノ區劃ハ大小其便宜ニ依ルヘシ第三號第四號帳簿亦同シ
- 二 營業物品ノ種類ニ依リ一帳簿ヲ數區ニ分チ又ハ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ得
第三號第四號帳簿亦同シ
- 三 番號ハ一年毎ニ新ニ付スヘシ第四號帳簿亦同シ
- 四 一箇年以上襲用スル帳簿ハ一箇年毎ニ區別ヲ爲シ置クヘシ第三號第四號帳簿
古物商取締法令施行規則

- 亦同シ
- 五 番號ハ物品一箇毎ニ付スヘシト雖モ同一ノ物品ニシテ其賣渡讓渡人同一ナルトキハ數箇ヲ合シ一號ノ下ニ記載スルモ妨ケナシ第四號帳簿亦同シ
 - 六 一回住所氏名ヲ詳記シタルトキハ其以後ニ在テハ單ニ氏名ノミヲ記スルモ妨ケナシ第三號第四號帳簿亦同シ
 - 七 物品ヲ買受讓受タル場合ニ於テ證人ヲ要シタルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其事由ヲ住所氏名ノ欄ニ記載スヘシ
 - 八 自家用ノ品質ヲ賣品ニ供スルトキハ其事由ヲ代價ノ欄ニ記載スヘシ

第三號樣式 物品賣渡明細帳(堅帳)

買渡讓渡交換ノ月日	買受讓受明細帳番號	代價	買受讓受人ノ住所氏名
何月何日	何年號	金 何 圓	何區何町何番地 氏名
何月何日	何年號	金何圓何拾錢	何區何町何番地 氏名
何月何日	何年號	無代價ニテ讓與	何區何町何番地 氏名
何月何日	何年號	自家用	何區何町何番地 氏名
何月何日	何年號	何年六號ト交換	何區何町何番地 氏名

- 一 物品ヲ交換シ又ハ無代價ニテ他人ニ讓與若クハ自家用ニ供シタルトキハ其事由ヲ代價ノ欄ニ記載スヘシ
- 二 買受讓受番號欄内ニ其物品ノ種類品質模樣ヲ記載スルトキハ其番號ヲ記載セサルモ妨ケナシ

第四號樣式 物品預リ帳(堅帳)

月日	番號	物品ノ種類品名	事由	住所氏名
何月何日	一	絲織藍縹縞裏花色絹男袴一枚	賣却依頼ニ依リ	何區何町何番地 氏名
何月何日	二	黒七七子ニツ巴三ツ紋付要甲斐絹男羽織一枚	何年何月何日返還	同 人
何月何日	三	淺黄「テン」ノ「張」椅子 十脚	何何買受何年	何區何町何番地 氏名
何月何日	四	桐長火鉢銅落シ五徳銅壺附一箇	賣却依頼コ依リ何月何日賣却	何區何町何番地 氏名

第五號樣式

行商及露店鑑札

警視廳檢印

古物商	書籍	銅鐵	何何	何何	何何
器具 書畫 何區何町何番地 屋號 氏號			年	月	日
何何 何何 何何			年	月	日

- 一 家族雇人ノ木札ニハ營業主ノ氏名ヲ肩書スヘシ
- 二 行商ニ用ユルモノハ堅七尺幅二寸五分露店ニ用ユルモノハ幅四寸堅一尺二寸以上ニ調製スヘシ

●雜業取締規則

明治三十六十二月 總令第五一號

第一條

本則ニ於テ雜業ト稱スルハ屋外ニ於テ左ノ業ヲ爲スヲ謂フ
一 紙屑買、襪襪買、綿屑買、空樽買、毀レ硝子買

二 下足直、靴直、洋傘直、帽子洗濯直

三 煙管羅字替

四 紙屑拾

第二條 雜業ヲ爲サントスル者ハ左ノ様式ノ標札ヲ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ之ヲ容器ニ掲出スヘシ

堅八寸

綿屑買(襪襪買)	何區何町何番地(何某方)
紙屑買	同(居)
毀レ硝子買	何警察署
下足直、紙屑	又ハ警察署
拾	分
氏	名
年	月
日	日
寸	三
横	寸

第三條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ標札ニ消印ヲ受クヘシ 但シ第三號ノ場合ハ戶主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 廢業シタルトキ

二 他ノ警察官署管内ニ轉居シタルトキ

三 死亡又ハ所在不明ナルトキ

第四條 標札ヲ毀損、亡失シ若ハ標札面記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ標札ヲ調製シ五日以内ニ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條 容器ハ常ニ清潔ニ保持スヘシ

雜業取締規則

- 第六條 雜業ヲ爲ス者ハ毎年二回二月所轄警察官署ニ出頭シ標札及容器ノ検査ヲ受ク
但シ正當ノ事由ナクシテ検査ヲ受ケササル者ハ廢業シタルモノト看做ス
- 第七條 標札ハ他人ニ貸與スヘカラス
- 第八條 雜業ハ日出前、日没後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 雜業ヲ爲ス者ハ居住者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ其ノ邸宅、建設物又ハ路次内ニ入ルヘカラス
- 第十條 本則ニ違背シ又ハ公安、風俗ヲ害スル虞アリ若ハ就業上不適當ト認ムルトキハ標札ノ檢印ヲ消除スルコトアルヘシ
- 第十一條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十二條 明治三十三年十二月警視廳令第四十七號雜業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

◎宿屋營業取締規則 明治二十八年三月 廳令第二號

- 第一章 通 則
- 第一條 宿屋營業ヲ分テ左ノ三種トス

- 一 旅人宿(一泊定ノ旅籠料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ謂フ)
- 二 下宿(一月定ノ食料座敷料等ヲ受ケテ人ヲ寄宿セシムルモノヲ謂フ)
- 三 木賃宿(賄ヲ爲サス木賃其他ノ諸費ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシムルモノヲ謂フ)
- 第二條 宿屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受ク
(四十二年十月廳令)
(第二十九號改正)
 - 一 出願者ノ族籍、住所、氏名、生年月日法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款寫及代表者ノ住所、氏名、生年月日
 - 二 營業ノ種別、場所及四隣ノ距離並附近ノ略圖
 - 三 屋號アルモノハ其ノ名稱
 - 四 營業用家屋ノ構造仕様書、圖面及客室ノ坪數
 - 五 燈火ノ種類、位置、裝置ノ圖面並仕様書
 - 六 落成期日
- 前項第二號、第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シ又ハ建物ヲ改築、増築、變更、修繕シ若シ燈火ニ關スル増築變更等ヲ爲サムトスルトキハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條 宿屋營業者公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ紊ルノ虞アリ又ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムルトキハ警視廳ニ於テ其ノ營業ヲ停止シ又ハ其免許ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ(三十六年十月廳令第四〇號及三十九年六月同令第二二號改正)
- 第四條 宿屋營業者ハ同家屋内ニ於テ芝居茶屋貸席待合茶屋料理店飲食店遊船宿藝娼妓口入營業及雇人口入營業ヲ兼スルコトヲ得ス 但シ郡部ニ在テハ雇人口入營業ヲ除クノ外此限ニアラス(三十九年六月廳令)
(第二十二號改正)

宿屋營業取締規則

第五條 (削除) (四十二年十月廳令第二十九號)

第六條 第二條ノ免許ヲ得タル後構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ検査済ノ認證ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第七條 正當ノ事由ナクシテ左ノ事項ノ一ニ觸ル、モノハ免許ノ失効ヲ命セラルヘシ
一 營業ノ免許ヲ得タル後三箇月以上開業セス又ハ開業後六箇月以上休業シタルトキ

二 落成期日ヲ經過シ尙落成セサルトキ

第八條 變災ニ罹リ營業用ノ家屋ヲ亡失シタル場合ニ於テ家屋再築ノ豫企アル者ハ特許ヲ受ケ滿一箇年以内ハ本則制限外ノ家屋ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得 但シ特許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ出願再築ニ著手セサルトキハ其特許ノ失効ヲ命セラルヘシ

第九條 族籍住所氏名屋號ニ異動ヲ生シ又ハ休業廢業若クハ後見人ヲ變換シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ (三十九年六月廳令第二十二號改正)

第十條 雇人ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ記シ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ 但シ雇入届ニハ前雇主ノ住所氏名ヲ附記スヘシ
前項ノ届書ハ郡部ニシテ市街地 (品川町内藤新宿町南千住町板橋町小松川村八王子町) 以外ノ土地ニ在テハ巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ差出スコトヲ得

第十一條 宿屋營業者ハ營業ノ種類住所屋號氏名ヲ明記シタル看板ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ 但シ夜間ハ標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ (四十二年十月廳令第二十九號改正)

第十二條 宿屋營業者ハ屋内ノ要所ニ適當ナル箇數ノ消火器又ハ消火劑ノ類ヲ設備スヘシ
前項ニ依リ消火器又ハ消火劑ノ類ヲ設備スヘキ場所ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
第十一條ノ三 消火器又ハ消火劑ノ類ハ時時試験ヲ爲シ常ニ有効ニ保持スヘシ (四十二年十月廳令第二十號追加)

第十三條 所轄警察官署ニ於テ必要アリト認メタルトキハ前項ノ試験ヲ爲サシムルコトアルヘシ
第十一條ノ四 客室ノ入口ニハ番號及定員數ヲ標記スヘシ (四十二年十月廳令第二十九號追加)

第十四條 第十一條ノ五 非常口ニハ壁一尺五寸以上幅五寸以上ノ黑板ニ非常口ナル文字ヲ白書シタル標札ヲ掲ケ夜間ハ赤色ノ標燈ヲ點スヘシ (四十二年十月廳令第二十九號追加)

第十五條 第十一條ノ六 客室ヨリ非常口ニ通スル要路ニ非常口ノ方向ヲ指示シタル標示ヲ爲スヘシ (四十二年十月廳令第二十九號追加)

第十六條 第十一條ノ七 庖厨、洗面所、浴室並廁圍ハ毎日掃除ヲ爲シ常ニ清潔ニ保持スヘシ (四十二年十月廳令第二十九號追加)

第十七條 第十二條 宿屋營業者ハ宿泊料ノ額ヲ定メ帳場及客室ニ揭示スヘシ
宿屋營業者ハ正當ノ事由ナクシテ宿泊ノ求ヲ拒絶スヘカラス

第十八條 第十三條 宿泊人ノ求メサル飲食物ヲ供シテ泊料以外ノ金錢ヲ請求シ又ハ遊興ヲ勸メ金錢ヲ浪費セシムヘカラス
第十四條 宿屋ニ於テハ藝妓ヲ招至スヘカラス

第十九條 第十五條 宿引ヲ出シ又ハ其他ノ手段ヲ以テ客ヲ誘引スヘカラス
宿屋營業取締規則

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ノ所持品ヲ受取ラントスル場合ニ於テハ警察官吏ノ立會ヲ請フヘシ

第十七條 宿泊人ノ承認ナクシテ他人ヲ濫リニ室内ニ入ラシムヘカラス

第十八條 宿泊人ノ疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等其需ニ應シ懇切ニ取扱フヘシ

第十九條 宿泊人變死傷痕ハ其所持品紛失シタルトキハ速ニ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第二章 旅人宿

第二十條 削除(三十九年七月令四十五號)

第二十一條 旅人宿ノ構造ハ左ノ各項ニ依ルヘシ 但シ既設ノ建物ニシテ之ニ依リ難キモノト認ムルトキハ特ニ斟酌スルコトアルヘシ(四十二年十月令二十九號改正)

一 出入口ハ出入ニ便利ナル位地ニ之ヲ設ケ幅五尺五寸以上高サ五尺七寸以上ト爲スヘキコト

二 客室ニハ適當ナル換氣及採光ノ裝置ヲ爲スヘキコト

三 客室ノ境界ニハ壁、襖、若ハ板戸ヲ用キ室内ニハ堅固ナル鎖鑰ヲ附シタル押入又ハ戸柵ヲ設備シ各其ノ鍵ヲ異ニスヘキコト

四 客室定員ノ割合ハ一人ニ付一坪半以上ト爲スヘキコト 但シ同伴者ハ此限ニ在ラス

五 二階以上ノ層階ニ客室ヲ設クルトキハ各層階ノ房室ノ坪數ニシテ十五坪以上ノモノハ幅員内法四尺以上踏面八寸以上蹴上ケ六寸五分以下ノ階段各二箇以上ヲ適當ノ場所ニ設クヘキコト

六 三階以上ノ層階ニ客室ヲ設クルモノハ其ノ建物ノ前面出入口ハ幅員三間以上ノ道路ニ之ヲ面セシメ且道路又ハ路次ニ面シタル適當ノ場所ニ非常口ヲ設クヘキコト

七 非常口ハ幅五尺以上高サ五尺七寸以上タルヘキコト

八 非常口ノ扉ハ外開キ戸又ハ引戸ト爲シ其ノ戸締ハ内部ニ之ヲ設クヘキコト

九 三階以上ノ層階ニ於ケル客室ニハ容易ニ屋外ニ出ルコトヲ得ヘキ適當ノ避難裝置ヲ爲スヘキコト

十 廁間ハ庖廚ニ對シ相當ノ距離ヲ有セシメ且臭氣ノ客室ニ及ハサル位地ニ各二箇以上ヲ設クヘキコト

第二十二條 燈火ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルヘシ(四十二年十月令二十九號改正)

一 燈火ハ電氣燈、瓦斯燈又ハ安全燈ヲ使用スヘキコト 但シ洋燈ト雖金屬製ノ油壺及適當ナル油煙止ヲ備フルモノハ郡部ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ市部ニ在リテハ三階以上ノ層階ヲ有セサルモノニ限り特ニ許可スルコトアルヘシ

二 瓦斯燈ニハ適當ノ場所ニ遮斷器ヲ備フヘキコト

三 瓦斯管ハ鐵又ハ眞鍮製ノモノヲ使用スヘキコト 但シ已ムヲ得サル場所ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

四 燈火(電氣燈ノ燃質物ニ接近セル場所ニハ適當ナル防火設備ヲ爲スヘキコト) 削除(四十二年十月令二十九號)

第二十三條 削除(四十二年十月令二十九號)

第二十四條 削除(上)

第二十五條 削除(上)

第二十六條 削除(上)

第二十七條 雙方ノ承諾ナキ者又ハ同伴者ニアラサル男女ヲ同室ニ宿泊セシムヘカラ

第二十八條 旅人宿營業者ハ第一號様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ製シ其紙數ヲ記シ所轄警

察署又ハ警察分署ノ檢印ヲ受クヘシ 但シ該名簿ハ使用終リタル後一箇年間保存ス

第二十九條 宿泊人名簿ハ餘白ヲ置カス順次記入シ若シ誤寫等アルモ其紙葉ヲ除却ス

ヘカラス

宿泊人ノ族籍住所職業氏名年齢ハ其本人ヲシテ自書セシムヘシ若シ自書シ能ハサル

トキハ代書スルモ妨ケナシ

軍隊學校生徒ノ如キ多數一團ノ宿泊者アルトキハ其引率者ノミヲ記シ其他ハ外何名

ト記スルモ妨ケナシ

第三十條 宿泊人ノ發着ハ正午十二時及午後十二時迄ノ二回ニ第二號第三號様式ニ從

ヒ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ 但シ郡部ニシテ巡

査派出所又ハ巡查駐在所アラサル地ニ於テハ巡回ノ警察官吏ニ届出ルコトヲ得

第三章 下宿

第三十一條 削除(三十九年七月)

第三十二條 第二十一條(第四號)及第二十二條ノ規定ハ下宿ニ之ヲ適用ス 但シ第二十

一條第五號ノ階段幅員ハ三尺ニ減シ第十號ノ廁圍ハ客室ノ坪數十坪以下ノモノニ限

リ各一箇ニ減スルコトヲ得(四十二年十月總令)

第三十三條 下宿轉宿又ハ出發シタル者アルトキハ二十四時内ニ第四號様式ニ從ヒ正

副二通ノ届書ヲ所轄警察署警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ差出シ一通ニ檢

印ヲ受ケ之ヲ編綴保存スヘシ 但シ郡部ニシテ巡查派出所又ハ巡查駐在所アラサル

地ニ於テハ巡回ノ警察官吏ニ差出スコトヲ得

第三十四條 下宿營業者ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ明記シ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第三十五條 下宿人外泊三日ニ及ヒ其所在不分明ナルトキハ二十四時内ニ所轄警察署

警察分署巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ 但シ郡部ニシテ巡查派出所又ハ

巡查駐在所ニアラサル地ニ於テハ巡回ノ警察官吏ニ届出ルコトヲ得

第四章 木賃宿

第三十六條 木賃宿營業ハ左ノ場所ニ限ル

芝 區 白金猿町

麻布區 廣尾町

赤阪區 青山北町五丁目

四谷區 永住町^{四番地ヨリ二十番地}マテヲ除ク

本郷區 上富士前町^{駒込富士前町八十二番地}マテヲ除ク

下谷區 初音町三丁目^{一番地ヨリ十三番地}マテヲ除ク

淺草區 淺草町

本所區 小梅業平町^{業平橋通}ナ除ク 花町^{堅川通}ナ除ク

宿屋營業取締規則

深川區

富川町 二十七番地ヨリ 東大工町 二十四番地ヨリ
靈岸町 百二十六番地ヨリ 小松川村ノ内 元四小松川村五分一橋

南葛飾郡

小岩村ノ内 元伊像 大崎村ノ内 元白金猿
品川町ノ内 元日市村 大崎村ノ内 元白金猿

荏原郡

世田ヶ谷村ノ内 元世田ヶ谷村

豊多摩郡

大久保村ノ内 元東大久保村百九十七番 内藤新宿町ノ内 元南

北豊島郡

板橋町ノ内 元上板橋宿字 下練馬村宿 中野村ノ内 元中野村
高田村ノ内 元高田千 南千住町ノ内 元下谷區

南足立郡

千住町ノ内 元千住一町目及四丁目飛地ノ
淵江村ノ内 元陸羽海道下妻海道

豊多摩郡

高井戸村ノ内 元高井戸 中野村ノ内 元中野村

西多摩郡

青梅町ノ内 元上町中町下町新町五日市町ノ内 元上町中町下町表通ヲ除ク

外一圓

南多摩郡

八王子町ノ内 元八日横山八幡八木千人本町ヲ除ク外一圓

北多摩郡

府中町表通及田無町表通ヲ除ク外一圓

第三十七條

木賃宿營業用ノ家屋ニシテ客室ノ坪數十坪以上ヲ有スルモノ若ハ層階ノ構造ニ係ルモノハ第二十一條及第二十二條ノ制限以内ニ於テ相當ノ構造設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ(四十二年十月總令) (二十九號改正)

第三十七條ノ二

第十一條ノ二乃至第十一條ノ六ノ規定ハ木賃宿ニ之ヲ適用セス但シ客室ノ坪數十坪以上ヲ有スルモノニ在リテハ第十一條ノ二及第十一條ノ三ノ規定ニ依ラシムルコトアルヘシ(四十二年十月總令) (二十九號追加)

第三十八條

客室及便所ハ日清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ
第三十九條 本則第二十八條乃至第三十條ハ木賃宿營業者ニモ之ヲ適用ス 但シ宿泊人ノ發着ハ午後十二時迄ニ一回届出ヘシ
宿泊人外泊シタルトキ及其外泊又ハ行先地ノ宿所ヲ知り得タルトキハ其旨宿泊人名簿ニ記載スヘシ(三十六年總令四〇) (號ニテ本條改正)

第五章 罰則

第四十條

第二條、第九條、第十二條第二項、第十三條乃至第十九條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十三條、第三十五條及第三十九條ニ違背シ又ハ第六條ノ検査濟ノ認證ヲ受ケスシテ使用シ若ハ第十一條ノ三第二項ノ命令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第十條乃至第十二條第一項、第二十九條、第三十四條及第三十八條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス(四十二年十月總令) (二十九號改正)

第四十條ノ二

前條ニ規定シタル違背行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ同條ニ照シ之ヲ罰ス 但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ減免スルコトヲ得(四十二年十月總令) (二十九號追加)

第四十條ノ三

營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人其ノ他ノ從業者ノ行為ニシテ第四十條ニ規定シタル違背行為アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(四十二年十月總令) (二十九號追加)

第四十條ノ四

營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ第四十條ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス(四十二年十月總令) (二十九號追加)

第四十條ノ五 營業者法人ナルトキ其ノ代表者、雇人其ノ他ノ從業者ノ行爲ニシテ第四十條ニ規定シタル違背行爲アリタルトキハ同條ノ罰則ヲ其ノ法人ノ代表者ニ適用ス
(四十二年十月聯合令 第二十九號追加)

附則

- 一 從來ノ營業用家屋ニシテ本則ノ構造制限ニ牴觸スルモノハ大修繕又ハ改造再築ノ場合ニ於テ本則ニ據リ構造スヘシ
 - 二 西多摩郡南多摩郡北多摩郡ニ於ケル木賃宿營業者ハ來ル明治三十年十二月三十一日迄ニ第三十六條ノ制限區域ニ據ルヘシ
- 附則 (四十二年十月聯合令 第二十九號追加)
- 一 從來ノ營業者ハ明治四十三年一月三十一日マテニ第十一條ノ二第二項及第二十二條ノ規定ニ依リ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 - 二 從來ノ營業用家屋ニシテ第二十一條ノ構造制限ニ牴觸スルモノハ改築又ハ大修繕ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ 但シ第九號ノ事項ハ明治四十三年一月三十一日マテニ之ヲ設備スヘシ

第一號様式 (用紙美濃紙)

相貌ノ特徴 其他事故	出發 月日時	到着 月日時	前夜 宿泊所	行先地	族籍	住所	職業	氏名	年齢
總計 宿泊人 何名									
何月何日 警察(分)署届濟									

第二號様式 (用紙半紙)

氏名	族籍	住所	年齢	職業	前夜 宿泊所	行先地	投宿 日時	相貌ノ特徴 其他事故
何月何日 投宿届								
何郡區何町何番地 屋號 氏名 印								

宿屋營業取締規則

宿屋營業取替規則

第三號樣式 (用紙半紙)

明治何年何月何日	出發屆	何郡區何町何番地	屋號	氏	名印
氏	名				
出發日	時				

五〇

第四號樣式 (用紙半紙)

下宿	轉發	宿屆	族籍住所職業	氏	年	名	印
何何ニ付何月何日ヨリ	又ハ何月何日	右及御屆候也					
年	月	日					
何郡區何町何番地	下宿營業人	氏	名	印			

第五號樣式 (用紙半紙)

明治何年何月何日	木賃宿宿泊人員屆	著	發	月末現員
府縣名	人員			
計	男女	男女	男女	男女
明治何年何月何日	何警察(分)署	御中	何區郡何町村何番地	木賃宿營業人
			何	某印

宿屋營業取締規則

五一

●宿泊届其ノ他ノ件

明治三十二年七月
内務省令第三二號

第一條 旅店主其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシムル者ハ廳府縣令ニ依リ其ノ所定ノ事項ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ
前項ノ届出ハ廳府縣令ニ規定アル場合ヲ除クノ外派出所若ハ駐在所ノ巡查又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 宿泊者ハ其ノ家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ主人若ハ管理人ノ交付セル用紙ニ之ヲ記載スヘシ

第三條 一戸ヲ構ヘテ居住シ又ハ一戸ヲ構ヘサルモ九十日以上同一市町村ニ居住スヘキ目的ヲ以テ居住スル外國人ハ自己及其ノ携帶セル家族ニ關シ氏名國籍職業年齢居住所、居住ノ年月日、前居住所、外國ニ於ケル住所及携帶セル家族ノ續柄ヲ居住ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ニ該當セサルモ九十日以上同一市町村ニ居住シタル外國人ハ九十日ノ末日ヨリ十日内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

外國人一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ外國人他人ノ家屋ヲ借受ケ一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屋所有者若ハ家屋管理人第一項及第二項ノ届書ニ連署スヘシ

日本ノ國籍ヲ失ヒ猶引續同一居住所ニ居住スル者ハ本條ノ届出ヲ要セス

第四條 第七條ノ登録簿ニ登録セラレタル外國人移轉スルトキハ左ニ記載シタル者移轉ノ日ヨリ十日内ニ移轉ノ年月日及移轉先ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ 但シ第四號

ニ依リ移轉者自ラ届出ヲ爲スヘキトキハ其ノ届出ハ移轉前タルヘシ

- 一 寄寓ノ外國人移轉シタルトキハ之ヲ寄寓セシメタル者、
- 二 一戸ヲ構ヘタル外國人ノ家族移轉シタルトキハ其ノ外國人
- 三 一戸ヲ構ヘタル外國人自ラ移轉シ家族猶其ノ戸ニ留ルトキハ首長タルヘキ成年者若シ首長タルヘキ成年者ナキトキハ成年者中ノ年長者
- 四 一戸ヲ構ヘタル外國人ニシテ其ノ家屋ヲ所有スル者全戸他ヘ移轉スルトキハ其ノ外國人
- 五 前各號ニ該當セサルトキハ家屋所有者又ハ家屋管理人

第五條 第七條ノ登録簿ニ登録セラレタル外國人自己又ハ家族ノ姓氏國籍ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第六條 戶籍吏外國人身分登記ヲ爲シタルトキハ其ノ事項ヲ其ノ外國人居住所所轄警察官署ニ通知スヘシ

外國人身分ニ關スル届書ニハ居住所ヲ記載スヘシ

第七條 警察官署ハ登録簿ヲ備ヘ置キ第三條第一 第二 第四條及第五條ニ依リ届出ヲ受ケタル事項並第三條第一項第二項及第四項ニ該當スル外國人ニ關シ第六條ニ依リ通知ヲ受ケタル事項ヲ登録スヘシ届出若ハ通知ナキトキハ雖第九條ニ依リ本條ノ登録ヲ要スル事實ヲ知り得タルトキ亦同シ

第八條 何人ト雖第七條登録簿ノ閱覽又ハ登録ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

登録簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料トシテ金十錢ヲ納メ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求

宿泊届其他ノ件

スル者ハ一枚ニ付金十錢ヲ納ムヘシ其ノ一枚ニ滿タサルモノト雖亦同シ 但シ枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

前項手数料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

第九條 第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項又ハ第七條登錄簿ニ登錄スヘキ事項其ノ他本籍ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スル外國人ハ警察官吏ノ請求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第十條 第九條ニ違背シテ警察官ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルニ實ヲ以テセス又ハ其ノ請求ニ應セサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第一條第三條第一項第二項第四條及第五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓二十五錢以下ノ科料ニ處シ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ帝國版圖ニ居住セル外國人ニ關シ第三條第一項第二項ニ

定ムル届出ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

第十三條 本令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ施行ス

湯屋營業取締規則

明治三十三年十二月 廳令第四八號

改正略符

(イ)三十五年廳令第三六號 (ロ)三十九年廳令第二五號 (ハ)四十二年廳令第三六號

第一條 浴場ヲ建設シ湯屋營業ヲ爲サントスル者ハ住所、氏名、年齢ヲ記シ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ改築、増築ヲ爲サムトスルトキ亦同シ 但シ此ノ場合ニ於テハ第三號、第四號及第五號ノ事項ヲ具スルヲ要セス(る)

一 建設地ノ地名番號

二 構造仕様書及圖面建圖、地繪圖、軸部、小屋組、(建圖)火焚場詳細圖

三 四隣ノ浴場ニ對スル最近距離ヲ示シタル實測圖 但シ其ノ距離ハ浴場本屋ノ四壁中最近ノ部分ヲ起點トス

四 湯質 但シ鑛泉及湯花ヲ用キルモノニ在リテハ其ノ分析成績書寫、藥湯ニ在リテハ藥劑免許證寫

五 燃料ノ種類

六 落成期日

建物ヲ修繕、變更セムトスルトキハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ(る)

第一項第三號ノ圖面ニシテ警視廳ニ於テ正確ナラスト認ムルトキハ更ニ實測ヲ命スルコトアルヘシ(る)

第二條 浴場ヲ借受ケ又ハ讓受ケ湯屋營業ヲ爲サムトスル者ハ住所、氏名、年齢ヲ記シ前條第一項第四號、第五號ノ事項ヲ具シ貸渡人又ハ讓渡人ノ連署ヲ以テ三日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

第三條

無能力者ニ關スル願届ハ左ノ規定ニ從フヘシ 但シ準禁治産者又ハ妻ニ在リテハ前二條ノ場合ヲ除クノ外保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要セス

- 一 未成年者、禁治産者ニ在リテハ法定代理人ノ連署
- 二 準禁治産者ニ在リテハ保佐人ノ連署
- 三 妻ニ在リテハ夫ノ連署

第四條 削除(注)

第五條

浴場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ 但シ特殊ノ構造ニ係ルモノハ本條ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

- 一 浴場ノ出入口ハ男女ヲ異ニシ外部ヨリ見透ササル様戸障子ヲ用キルコト
- 二 脱衣場、流シ場及浴槽ハ男女ヲ異ニシ外部ヨリ見透ササル様裝置ヲ爲スコト
- 三 浴場内ニハ浴客ノ衣類、下足其ノ他ノ携帶品ヲ保管シ得ヘキ器具ヲ備フルコト
- 四 男女浴場ノ境界ニハ互ニ見透ササル様高サ六尺以上ノ障扉ヲ設クルコト
- 五 流シ湯ニハ水槽及湯槽ヲ設ク且天井ニハ湯氣拔ヲ設クルコト
- 六 浴用ニ供シタル汚水ヲ屋外ノ下水ニ流下セシムル様裝置ヲ爲スコト
- 七 火焚場ハ四壁トモ石又ハ煉化石ヲ以テ築造シ天井裏、出入口及窓ハ不燃質物ヲ以テ構造シ且出入口及窓ニハ防火戸ヲ設クルコト
- 八 火焚場天井ノ高サハ地盤ヨリ八尺以上タルコト
- 九 煙突ハ石、煉化石又ハ金屬ヲ以テ之ヲ設ケ屋棟ヨリ六尺以上突出セシメ屋上ハ煙突ノ周圍十二尺以上不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
- 十 火消所及灰置所ハ火焚場内ニ地盤ヲ穿テ其ノ周圍ヲ不燃質物ヲ以テ築キ十字形

ノ中仕切ヲ設ケ其ノ蓋ハ石又ハ金屬ニ限ルコト

十一

燃料置場ハ石又ハ煉化石ヲ以テ軒高九尺以上ニ建設シ其ノ出入口ニハ防火戸ヲ附スルコト 但シ火焚口ヨリ三間以内ニ建設スルトキハ其ノ出入口ハ火焚口ヨリ最遠ノ方向ニ設クルコト

十二

燃料置場ニハ窓ヲ設クヘカラサルコト 但シ天窗ニシテ適當ナル防火構造ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

十三

燃料小出場ハ火焚場内ニ設ケ不燃質物ヲ以テ防圍スルコト

第六條

浴場ノ建設ヲ爲サムトスル者ハ四隣浴場トノ距離ハ左ノ制限ニ從フヘシ 但シ制限以内ト雖土地ノ狀況ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ其ノ公益ノ爲移轉セムトスルトキ亦同シ(注)

- 一 市部ハ直徑二丁以上
- 二 郡部ハ直徑二丁半以上

第七條 削除(注)

第八條

第一條ノ許可ヲ得タル後其ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出使用ノ認可證ヲ受クヘシ 但シ修繕、變更ノ場合ニ在リテハ所轄警察官署ニ届出使用ノ認可ヲ受クヘシ(注)

第九條

湯質又ハ燃料ノ種類ヲ變更セムトスルトキハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ 但シ湯質ニシテ鑛泉又ハ藥湯ニ係ルトキハ第一條第一項第四號但書ノ書面ヲ添附スヘシ(注)

第十條

營業時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス 但シ營業時間内ト雖烈風ノトキ

ハ焚火ヲ中止スヘシ

第十一條 店頭ニハ湯質及浴場ノ地名番號並營業者ノ氏名ヲ記シタル看板(幅七寸)ヲ掲ケ且夜間ハ標燈ヲ點スヘシ

第十二條 入浴料ハ浴客ノ略易キ場所ニ揭示スヘシ

第十三條 汚水又ハ前日用キタル湯水ヲ浴用ニ供スヘカラス 但シ鑛泉湯及藥湯ハ三日以内ヲ限リ浴用ニ供スルコトヲ得

第十四條 營業時間内ハ湯槽ニ湯ヲ、水槽ニ水ヲ貯溜スヘシ

第十五條 浴湯、湯槽、水槽、流シ場、及湯桶ハ毎日一回以上、竈及煙突ハ毎月一回以上掃除ヲ爲スヘシ

竈及煙突ノ掃除ハ豫メ期日ヲ定メ所轄警察官署ニ届置キ掃除ノ終リタルトキハ其ノ都度所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ 但シ此ノ場合ニ於テハ検査ノ終ルマテ營業ヲ休止スヘシ

第十六條 消炭及灰ハ二十四時間ヲ經過シ火氣消盡シタル後ニ非サレハ火消所外ニ出スヘカラス

第十七條 燃料ハ燃料置場及小出場外ニ置クヘカラス

第十八條 浴場ニ破損ヲ生シタルトキハ第一條ノ規定ニ依リ速ニ修繕ヲ加フヘシ 但シ輕微ノ破損ニ限リ著手落成トモ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ
一 第一條ニ依リ浴場建設ノ許可ヲ得タル後其ノ建設ニ著手シタルトキ

二 族籍、住所、氏名ニ異動ヲ生シ若ハ法定代理人ヲ變更シタルトキ

三 營業者法人ナル場合ニ於テ之ヲ代表スル責任者ヲ變更シタルトキ
四 休業又ハ廢業シタルトキ 但シ浴場ニシテ他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ(ハ)

一 浴場建設ノ許可ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ建設ニ著手セサルトキ

二 落成期日ヲ經過シ尙落成セサルトキ

三 燒失又ハ崩壞ニ罹リ百八十日以内ニ改築ヲ出願セサルトキ

四 休業六十日以上ニ亘リタルトキ

五 浴場ノ使用權ヲ喪失シタルトキ(ハ)

六 無能力者ニシテ法定代理人若ハ夫ノ許可又ハ保佐人ノ同意ヲ取消サレタルトキ(ハ)

第二十一條 湯屋營業者本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認めルトキハ警視廳ニ於テ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 本則ニ違背シタル者ハ三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十三條 湯屋營業者ニシテ十二年未滿ノ者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人ヲシテ其ノ責ヲ負ハシムルコトアルヘシ

第二十四條 法人ニシテ本則ニ違背シタルトキハ第二十二條ノ科料ヲ其ノ代表スル責任者ニ適用ス

第二十五條 第五條第七號、第八號、第九號及第十一號ハ郡部ニ限リ之ヲ適用セス

客ノ來集ヲ目的トスル浴場ニ於テ十二歳以上ノ男女混浴セシメサル件

六〇

但シ火鉢場ノ天井裏、屋上煙突ノ周圍ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 明治三十年 警視廳令第四十七號湯屋取締規則及明治三十二年 警視廳令第三號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

◎客ノ來集ヲ目的トスル浴湯ニ於テ十二歳以上ノ男

女混浴セシメサル件

明治三十三年五月
內務省令第二五號

客ノ來集ヲ目的トスル浴場ニ於テハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシムルコトヲ得ス
前項ニ違背シタル營業者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス 但シ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視廳總監)ハ營業者
ノ出願ニ對シ本令施行ノ日ヨリ起算シ一年以内ノ範圍ニ於テ浴場ノ設備ヲナスニ必要
ナル期間本令ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

◎雇人口入營業取締規則

明治三十六年七月
廳令第三一號

改正略符 (イ)三十六年十二月廳令五三號
 (ロ)三十九年六月廳令二三號

第一條 本則ニ於テ雇人口入營業ト稱スルハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ手数料ヲ受ケ雇人
ノ身元ヲ保證シテ雇傭ノ周旋ヲ業ト爲スヲ謂フ

第二條 雇人口入營業ヲ爲サムトスル者ハ族籍、住所、氏名、生年月日、屋號、營業
所及寄子專業ナルトキハ其ノ旨ヲ記シ(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地)市部並郡部
中品川町、新宿町、板橋町、千住町、南千住町、八王子町ニ在リテハ二百圓以上、
其ノ他ノ郡部ニ在リテハ百圓以上ノ不動産ヲ有スル登記謄本又ハ土地臺帳ノ謄本ヲ
添附シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ支店ヲ開設セムトスルトキ亦同シ 但シ
支店開設地ニシテ他ノ警察官署管内ニ係ルトキハ本店所轄警察官署ヲ經由スヘシ
(イ)(ロ)

第三條 未成年者、禁治產者ノ爲ス願届書ニハ法定代理人ノ連署、準禁治產者、妻ノ
爲ス第二條ノ願書ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス

第四條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察署宛署ニ届出ヘシ 但シ第五號ノ場合
ハ戶主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ(イ)(ロ)

- 一 第二條ノ不動産ヲ喪失シ又ハ減少シテ其ノ制限額以下ニ至リタルトキ
- 二 營業者ノ族籍、住所、氏名、屋號又ハ營業所ノ位置(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名若ハ定款)ヲ變更シタルトキ
- 三 法定代理人、保佐人、夫又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキ

雇人口入營業取締規則

四 休業又ハ廢業シタルトキ

五 營業者死亡シ又ハ所在不明ナルトキ

六 管理人ヲ解キタルトキ

第五條 營業者ハ藝娼妓口入、宿屋、料理屋、飲食店、貸座敷、引手茶屋、待合茶屋、貸席、遊船宿、藝妓屋、遊技場其ノ他之ニ類スル營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス(ろ)

第六條 營業上管理人ヲ置キ又ハ雇人ヲ使用セムトスルトキハ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日ヲ記シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

雇人ニハ第三號様式ノ木札ニ所轄警察官署ノ烙印ヲ受ケ之ヲ携帯セシメ解雇シタルトキハ其ノ消印ヲ受クヘシ

管理人又ハ雇人ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ若ハ就業上不適當ト認メタルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 營業者ハ其ノ業名、住所、氏名、屋號ヲ記シタル看板(長二尺五寸 幅七寸)ヲ店頭ニ掲クヘシ

第八條 營業者ハ手数料其ノ他所轄警察官署ノ指示事項ヲ店舗内賭易キ場所ニ揭示ス(ヘシ(ろ))

第九條 營業者ハ左ニ掲クル者ノ周旋ヲ爲スヘカラス

一 未成年者ニシテ法定代理人ノ承諾書ヲ有セサル者

二 妻ニシテ夫ノ承諾書ヲ有セサル者

第十條 營業者ハ廣告、揭示其ノ他方法ノ如何ヲ問ハス事實ヲ虚構シ又ハ街路、公園及船車發着ノ場所等ニ於テ雇人タルヘキコトヲ勧誘スヘカラス

營業者ハ依頼者ノ意思ニ反シ又ハ雇傭契約期間内ノ者ヲ勧誘シテ他ニ周旋スヘカラス

第十一條 營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ手数料ノ外報酬ヲ受クヘカラス

第十二條 營業者ハ雇人ノ給料又ハ前借金等ノ取引ニ干渉スヘカラス

第十三條 營業者ハ依頼者ヲ宿泊セシムヘカラス 但シ己ムヲ得サル事情アル者ニ限リ其ノ族籍、住所、氏名、生年月日及宿泊料ヲ記シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ケ

宿泊セシムルコトヲ得(い)

第十三條ノ二 寄子(未婚、湯屋男、種痘、社氏、粉挽) 專業者ハ其ノ保證周旋ヲ爲スヘキ寄子ノ族籍、住所、氏名、生年月日及業名ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ保證周旋ヲ止メタルトキ亦同シ(い)

第十四條 手数料ハ雇傭契約期間内ニ受クヘキ雇給總額十分ノ一以内トス(雇給額ノ定マラサルモノハ其ノ所得サ一箇月ニ四五十錢以下ト見做ルコトヲ得) 但契約期間六箇月以上ニ亘ルモノト雖モ其ノ手数料ハ六箇月分ノ雇給總額十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 手数料一圓ニ滿タサルトキハ一圓迄領收スルコトヲ得

第十六條 手数料ハ雇傭契約確定シタル後雇主及雇人ヨリ各半額ヲ領收シ領收證書ヲ交付スヘシ 但シ其ノ殘額五拾錢未滿ナルトキハ五拾錢迄領收スルコトヲ得(い)

雇傭契約期間内解雇スルトキハ其殘期間ニ對スル手数料ヲ雇主及雇人ニ返却スヘシ

第十七條 營業者ハ第一號、第二號様式ノ帳簿ヲ調製シ紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ事故アル毎ニ之ヲ記入スヘシ

前項ノ帳簿ハ營業ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ若ハ其ノ記入ニ係ル總雇人

ノ身元保證期間満了ノ後二箇年ヲ經過シタルトキハ消印ヲ受ケ之ヲ廢業スルコトヲ得

第十七條 警察官吏又ハ雇主若ハ雇人ニシテ營業用帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ營業者ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第十八條 雇人ハ雇人簿ヲ所持シ其ノ被雇中ノ行狀ヲ表示スルノ用ニ供スヘシ

第十九條 雇人簿ハ第四號様式ニ依リ營業者ニ於テ調製シ雇人ヨリ請求アリタル場合ニハ相當代價ヲ以テ之ヲ頒ツヘシ

雇人簿ノ價額ハ豫メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ店舖内賭易キ場所ニ揭示スヘシ

第二十條 營業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ法定代理人、保佐人、夫及法人ノ代表者ニシテ之ニ該當スルトキ亦同シ

一 營業ノ許可ヲ受ケタル後九十日以内ニ開業セス又ハ百八十日以上休業シタルトキ

二 第二條ノ不動産ヲ喪失シ又ハ減少シテ其ノ制限額以下ニ至リタルトキ

三 無能力者ニシテ法定代理人若ハ保佐人ナキニ至リ又ハ其ノ許可若ハ同意ヲ取消サレタルトキ

四 本則ニ違背シ又ハ就業上不適當ト認メタルトキ

五 公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ若ハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキ

第二十一條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十二條 營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人其ノ他從業者ノ所爲ト雖モ營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 十二年未滿ノ者又ハ禁治産者ニシテ本則ニ違背シタルトキハ第二十一條ノ科料ヲ其ノ法定代理人ニ科スルコトアルヘシ

第二十四條 法人ノ業務ニ關シ法人ノ代表者其ノ他ノ從業者又ハ雇人ニシテ本則ニ違背シタルトキハ第二十一條ノ科料ヲ法人ニ適用ス

第二十四條ノ二 第十二條乃至第十六條ハ寄子專業者ニハ之ヲ適用セス(五)

附 則

第二十五條 現在ノ雇人口入營業者又ハ身元保證營業者ハ更ニ出願ヲ要セス本則ノ雇人口入營業者ト看做ス

第二十六條 報酬ヲ受ケ雇人ノ身元保證又ハ雇備ノ周旋ヲ業ト爲スノ事實アル者ハ本則ノ違背者トシテ第二十一條ヲ適用ス

第二十七條 明治二十四年六月警察令第十一號雇人口入營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號様式

雇主 囑託簿	
番 號	第 號
囑託年月日	何年何月何日

住	所	何區何村何番地
職	業	官吏(銀行員)(吳服商)
氏	名	何某
雇人ノ種類		婢(僕)(乳母)(子守)
給	料	一箇月金何程
雇人ノ氏名及雇人口入簿ノ番地		何某、第 號
第二號様式(イ)		
雇人口入簿		
番	號	第 號
申込年月日		何年何月何日

周旋保證年月日	何年何月何日			
氏名生年月日	何某 何年何月何日生			
原籍及配偶者ノ有無	何府何區何村何番地何某何男、有(無)夫、妻			
住	所	何府何區何村何番地(何某方)		
舊雇主ノ住所職業、氏名	何區何村何番地官吏(銀行員)(吳服商)何某			
新雇主ノ住所職業、氏名	同			
雇人ノ種類、就雇年月日	下婢(何何) 就雇 何年何月何日			
雇傭契約期間	何箇月(年)			
給料(給料ナキモノハ其ノ所得額)	一箇月 金何程(一箇月所得見積額金何程)			
手	數	料	金何程	
解雇年月日	何年何月何日			
手	數	料	返却額	金何程

雇人口入營業取締規則

雇主 託簿番號 第 號

第三號樣式

長二寸五分

表

何區何町何番地
何郡何村何番地

雇人口入營業

何某雇人

氏 名

何年何月何日生

裏

明治何年何月何日

雇人口入營業

氏 名

第四號樣式

縦四寸

表

雇人 簿 紙數十枚

何區何町何番地何縣士族(平民)

何郡何村何番地何縣士族(平民)

雇人 何 某

何年何月何日生

裏

(記載例)

中

本人ハ雇入中品行善良ニシテ勞務ニ勤勉セリ

神田區小川町一番地

年月日 雇主 松田 三郎

本人ハ雇入中行狀善良ニシテ誠實ニ勤勉セリ

淺草區淺草町三十番地

年月日 雇主 石田 五郎

裏

神田區三崎町三丁目壹番地

雇人口入營業 山本吉太郎

淺草區千束町十番地

雇人口入營業 太田 三吉

雇人口入營業取締規則

代書業取締規則

明治三十九年八月
總令第五二號

- 第一條 本則ニ於テ代書業ト稱スルハ他人ノ委託ヲ受ケ文書、圖面ノ作製ヲ業トスルヲ謂フ
- 第二條 代書業ヲ爲サムトスル者ハ族籍、住所、氏名、生年月日、業務所ノ地名、番號及履歷ヲ具シ業務所所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ代書業ヲ許可セサルコトアルヘシ
 - 一 公權剝奪又ハ停止中ノ者
 - 二 信用ヲ害スル罪財産ニ對スル罪誣告又ハ誹毀ノ罪ヲ犯シタル者及本號該當者ト居ヲ同フスル者
 - 三 公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ若ハ素行不良ト認メタル者
 - 四 他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認メタル者
- 第四條 代書業者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 訴訟事件、非訟事件及其ノ他ノ事件ニ關シ代書以外ノ干與ヲ爲シ又ハ之ヲ鑑定、紹介スルコト
 - 二 住所又ハ業務所ニ於テ他人ヲシテ法律事務ヲ取扱ハシムルコト
 - 三 代書業者ニ非サル者ヲシテ業務上ノ代理ヲ爲サシムルコト
 - 四 同一事件ニ付利害ヲ異ニスル當事者雙方ノ代書ヲ爲スコト
 - 五 代書事件ヲ他人ニ漏示スルコト
 - 六 名義ノ如何ヲ問ハス代書料以外ノ報酬ヲ受ケ又ハ故ラニ文書ヲ冗長ニシ若ハ紙數ヲ増加スルコト

- 七 代書ノ委託ヲ勸誘シ又ハ委託ヲ受ケタル事件ニ關シ事實ノ虛構ヲ勸誘シ若ハ委託ニ反スル代書ヲ爲スコト
- 八 正當ノ理由ナクシテ代書ノ委託ヲ拒ミ又ハ文書、圖面ノ作製ヲ遲滯スルコト
- 第五條 代書業者ハ附録様式ノ事件簿ヲ調製シ代書ヲ爲シタル毎ニ之ニ記載スヘシ前項ノ事件簿ヲ廢棄セムトスルトキハ業務所所轄警察官署ノ承認ヲ受クヘシ
- 第六條 警察官吏ニ於テ前條ノ事件簿ノ提示ヲ要求シタルトキハ代書業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第七條 代書業者業務上ニ使用スル印影ハ豫メ業務所所轄警察官署ニ届出代書ヲ爲シタル文書、圖面ノ末尾ニ署名捺印スヘシ 但シ法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 代書業者ハ文書、圖面ノ難易又ハ紙數及各紙ノ行數字數ニ依リ代書料ヲ定メ業務所所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 代書料ハ業務所ノ賭場キ場所ニ揭示スヘシ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ業務所所轄警察官署ニ届出ヘシ 但シ第三號ノ場合ニハ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 一 族籍、住所、氏名又ハ業務所ノ位置ヲ變更シタルトキ
 - 二 休業又ハ廢業シタルトキ
 - 三 代書業者死亡シ又ハ所在不明ト爲リタルトキ
- 業務所變更ノ位置ガ他ノ警察官署管内ニ係ルトキハ前業務所所轄警察官署ヲ經由ス

- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當シタル時ハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 一 百八十日以上休業シタルトキ
 - 二 第三條第四條各號ノ一ニ該當シタルトキ
- 第十一條 本則ニ違背シタル者又ハ第十條ノ停止若ハ禁止ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十二條 代書業者ハ其ノ戶主、家族、同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

附 則

第十三條 本則施行以前ヨリ代書業ヲ爲シ尙之ヲ繼續セムトスル者ハ本則施行ノ日ヨリ十五日以内ニ本則ニ依リ許可ヲ受クヘシ

附録様式

事件簿

委託ヲ受ケタル年 月 日	事件ノ要領	文書(圖面) 紙 數	代書料金	委託者ノ住所氏名

鍛冶鑄物及鑄掛工場取締規則

明治二十二年十月 警察令第三十一號

改正略符

- (イ) 二十二年十一月警察令三十三號
- (ロ) 二十四年四月警察令第八號
- (ハ) 二十六年六月警察令十九號
- (ニ) 二十七年三月警察令十一號
- (ヒ) 三十四年六月警察令四六號

- 第一條 鍛冶鑄物及鑄掛工場ヲ建設シ又ハ移轉若クハ構造ヲ變換セントスル者ハ其場ノ圖面竝四隣ノ距離其他構造方法ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出免許ヲ受クヘシ 但石炭ヲ燃料ニ使用スルモノハ明治十四年八月布達甲第五十六號ニ汽罐汽機ヲ裝置スルモノハ汽罐汽機取締規則ニ依ルヘシ(イ)(ロ)(ハ)
- 第二條 工場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ請ヒ其證ヲ受クヘシ(ニ)(ヒ)
- 第三條 検査證面ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ遺失毀損シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出其證ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ(ロ)(ヒ)
- 第四條 廢業シタルトキハ検査證ヲ所轄警察署又ハ警察分署ニ返納スヘシ(ニ)
- 第五條 鍛冶鑄物及鑄掛工場ハ左ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ 但郡部ニ屬スル市街地(品川町内、新宿町、板橋町、南千住町、千住町、青梅町、八王子町、府中町)外ニ在テハ此制限ニ據ラサルコトヲ得(ニ)

鍛冶鑄物及鑄掛工場取締規則

- 一 火床 「高ホド」ニ地ホド」ヤ
カマド」等ノ類ナ云フ ハ一坪以上ノ土間ニ設ケ且汽力ト輔トヲ問ハス其風管ト
火床トノ間ニ障塀 「高ホド」ハ其上端ヨリ「地ホド」ハ地
盤ヨリ高サ二尺以上幅ハ之ニ準ス ヲ設クヘシ 但火床及障塀ハ石又
ハ煉化ヲ用フヘシ
- 二 火床ニ近接スル四壁ハ石、煉化又ハ金屬天井裏ハ漆喰塗若クハ金屬ヲ以テ之ヲ
覆フヘシ
- 三 「高ホド」ヲ使用スルモノハ障塀ニ接續シテ天蓋形金屬ノ烟出ヲ設クヘシ
烟出ヲ設備スル者ハ石、煉化金屬又ハ漆喰塗ノ小屋根形ヲ用ヒ屋上ヘ高サ三尺
以上突出セシムヘシ 但金屬ノ烟管ニテ屋上ヲ貫通スルトキハ其附著セシ周圍
ハ烟管ノ外部ヨリ厚サ三寸以上ノ石又ハ漆喰ヲ以テ嵌塞スヘシ （五）
- 第六條 工場及火床烟出等毀損セシトキハ速ニ修理ヲ加フヘシ 但修繕ノ節ハ著手落
成共所轄警察署又ハ警察分署ヘ届出ヘシ （六）
- 第七條 鑄掛錠前直シ焼印等ノ行路營業者ハ左ノ事項ニ從フヘシ （七）
 - 一 行路營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ警察分署ニ願出身分證ヲ受ケ之ヲ
携帶スヘシ
 - 二 身分證ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ遺失毀損シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ
届出其證ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ 但廢業ノトキハ之ヲ返納スヘシ
 - 三 身分證ハ毎年一回 （八） 所轄警察署又ハ警察分署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ
 - 四 該營業者ハ求メナキ人ノ家屋ニ立入ルヘカラス
 - 五 盜罪又ハ本則三回以上ヲ犯シ滿三年ヲ經過セサル者竝監視中ノ者ニハ身分證ヲ
附與セス （九）

第八條

本則ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ依リ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 第一條第二條第三條第四條第六條ハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ三日以上
十日以下又ハ罰圓九十五錢以下
 - 二 第七條ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下又ハ二十錢以上一
圓二十五錢以下
- 附 則
- 一 西多摩郡南多摩郡北多摩郡ニ於ケル從來ノ營業者ハ來ル四月三十日迄ニ工場ノ
圖面ヲ添へ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出スヘシ其市街地ニ於ケル工場ニシテ
本則ノ構造制限ニ牴觸スルモノハ大修繕又ハ改造ノトキ之ヲ改ムヘシ （一）
 - 二 西多摩郡南多摩郡北多摩郡ニ於ケル從來ノ行路營業者ハ來ル四月三十日迄ニ本
則第七條ノ手續ニ依リ身分證ヲ受クヘシ （二）

衛生之部

種痘法

明治四十二年四月
法律第三五號

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ 但シ痘瘡ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ
- 二 第二期 數ヘ歳十歳 但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ

定期前二年以内ニ善感シタル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス

第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ

第三條 左ニ掲クル者ハ未成年ノ生徒、院生若ハ之ニ準スヘキ者又ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其義務ヲ履行セシムヘシ

- 一 學校、育兒院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長其ノ他首長
- 二 教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者

前項各號ニ掲クル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ前項ノ規定ヲ適用ス

第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ種痘ヲ受ケサルカトハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者ヲシテ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行セシムヘシ

種痘法

前項ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長以下之ニ準スニ届出ツヘシ

未成年者ヲ傭使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス

前條第二項ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ

第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ猶豫ヲ申請スルコトヲ得

前項ニ依リ種痘ヲ猶豫シタルトキハ市町村長ハ其ノ證ヲ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ第一期種痘ハ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戸籍吏ニ通知シ戸籍吏ハ戸籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證跡不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證跡不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定

シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ 但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ檢診ヲ經タル者ニ種痘濟證ヲ交付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採收スルコトヲ得

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出ツヘシ

第十三條 醫師ハ其ノ診療ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ 但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ痘瘡豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受クヘキ者ノ範圍及期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師虚偽ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ニ掲クル者ハ科料ニ處ス

一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者

二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

種痘法

七九

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附 則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス
本法施行前數ヘ歲七歲以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依ル第一期ノ種痘、數ヘ歲八歲以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

種痘法施行規則 明治四十二年十二月 內務省第二六號

第一條 市町村長(區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ市町村長ニ準スヘキ者ヲ含ム、以下之ニ做フ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現住人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ

- 一 前年中出生ノ者
 - 二 數ヘ歲十歲ノ者
 - 三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者
- 地方長官(東京府ハ警視廳、以下之ニ做フ)ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得

本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシムヘシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布埜利亞(格露布)丹毒、麻疹、百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條 種痘法第九號ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遅クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ
前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條 種痘濟證、種痘證及種痘猶豫證ハ附録様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戸籍吏ニ通知スヘシ

一 第一期種痘善感シタル者

二 第一期第二回ノ種痘不善感ナル者

三 第一期種痘施行前痘瘡ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戸籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依ル符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明スル者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス

一 痘瘡經過證

二 種痘猶豫證

三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ

種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戸籍謄本又ハ抄本

五 市町村長ノ證明書

六 種痘又ハ痘瘡ノ癍痕 但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ證據

第十三條 地方長官ハ臨時種痘ヲ命セムトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

用紙赤色紙

様式

第一號(第一期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第一期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某男

何

年

某 月生

年 月種痘(第 回)善感 願

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

年 月 日

市町村長

何

某 圖

注意

(此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ)

種痘法施行規則

用紙赤色紙

第二號(第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第一期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某男

何

年

某
月生

年 月 日種痘(第二回)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

市町村長 何

某團

年 月 日

注意 〔此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セララルヘシ〕

用紙青色紙

第三號(第二期第一回又ハ同第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某女

何

年

某
月生

年 月種痘(第一回)善感 願

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

市町村長 何

某團

年 月 日

注意 〔此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セララルヘシ〕

用紙青色紙

第四號(第二期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第二期種痘濟證

住所 道府縣郡市區町村某女

何

年

某
月生

年 月種痘(第二回)不善感

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡

市町村長 何

某團

年 月 日

注意 〔此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セララルヘシ〕

用紙白紙

第五號(第一期又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第一期第一回種痘濟證

住所 道府縣都市區町村某男
何 女

年 某
月生

年 月種痘

不善感

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

道府縣郡

市町村長

何

某

年 月 日

注意 〔此證ハ更ニ種痘ヲ受ル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セ
ス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セラルヘシ〕

第六號(第一期第一回又ハ同第二期ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第一期種痘證

住所

道府縣都市區町村某男
何 女

何

年

某
月生

年 月種痘(第 回)善感 類

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣都市區町村

醫師 何

某團

年 月 日

注意 〔此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提
示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セラルヘシ〕

第七號(第一期第二回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第一期種痘證

住所

道府縣都市區町村某男
何 女

何

年

某
月生

年 月種痘(第二期)不善感

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣都市區町村

醫師 何

某團

年 月 日

注意 〔此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提
示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セラルヘシ〕

第八號(第二期第一回又ハ同第二期ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

▲第二期種痘證

住所

道府縣都市區町村某男
何 女

何

年

某
月生

年 月種痘(第 回)善感 類

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣都市區町村

年 月 日

醫師 何

某園

注意 〔此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ〕

▲第二期種痘證

住所 道府縣郡市區町村某男

何

某

年 月 日

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣郡市區町村

醫師 何

某園

注意

〔此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ〕

第十號(第一期第一回又ハ第二期ノ第一回ニ不善感ノ者ニ交付スルモノ) ▲第一期第一回種痘證

住所 道府縣郡市區町村某男

何

某

年 月 日

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

右更ニ種痘ヲ受クヘキモノトス

道府縣郡市區町村

醫師 何

某園

注意

〔此證ハ更ニ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ〕

用紙白紙 第十一號

▲第三期種痘猶豫證

住所 道府縣郡市區町村某男

何

某

年 月 日

右者(何病)ノ爲種痘法第七條ニ依リ(治癒ニ至ル)迄種痘ヲ猶豫ス 但シ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ前記ノ(疾病治癒)シタル日ヨリ三十間以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

疾病治癒 期間經過

道府縣郡

市町村長 何

某園

注意 〔此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ〕

●未成年者喫煙禁止法

明治三十三年三月
法律第三三號

- 第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス
 - 第二條 前條ニ違反スル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス
 - 第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知りテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス
 - 第四條 親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス
 - 第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知りテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附 則
- 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●鍼灸術營業取締規則

明治十八年九月
東京府布達甲第六二號

改正略符(イ)三十九年四月總令七號

- 第一條 鍼治又ハ灸治ノ業ヲ營マントスルモノハ左ノ書式ニ依リ尙其師ノ證書ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ、島地ニ在テハ島廳又ハ島役所ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ(イ)
 - 第二條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ該主治醫ノ承諾ヲ經ルニ非ラサレハ施術スルヲ許サス
 - 第三條 妄リニ人ヲ勸メ又ハ危險病症ニ施術スヘカラス
 - 第四條 藥方ヲ示シ又ハ藥劑ヲ與フルコトヲ許サス
 - 第五條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ
 - 第六條 轉居スルトキハ其旨届出スヘシ 但シ管外ヘ轉居スルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ
 - 第七條 氏名ヲ改メ若クハ鑑札ヲ遺失又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札ヲ受クヘシ
 - 第八條 廢業若クハ死亡シタルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ
 - 第九條 (三十三府令二二) (五號ヲ以テ創除) 此規則ニ違反シタルモノハ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ
 - 第十條 前條ニ依リ營業ヲ禁止シタルモノハ鑑札ヲ取上ケ其停止シタルモノハ幾年月日間停業シタル旨鑑札裏面ニ記載下付スルモノトス
- 書 式

鍼治營業鑑札御下付願

私儀 鍼治 營業仕度候ニ付 (營業罷在候處明治十八年甲第六十一號御布達ニ據リ免許
鑑札御下付相成度別紙履歷書及師家ノ證書相添ヘ (從來營業ノ者ハ證書) 此段奉願候也

何郡區何町村何番地

族 籍

鍼灸術營業取締規則
年 月 日

宛(い)

氏

名 印
九三

(卅三年十二月府令第一二五號ヲ以テ削除ニヨリ奥印ヲ要セズ)

履 歷 書

何郡何區何町村何番地

族 籍

氏

名

何年 何月生

一何年何月ヨリ何年何月迄何誰ニ隨ヒ何術修業

一何年何月ヨリ何年何月迄何府縣何郡區何町村何番地ニ於テ營業

(從來營業ノ者ハ現ニ營業ノ地名ヲ記入スヘシ)

右之通

右

氏

名 印

年 月 日

◎清涼飲料水營業取締規則

明治三十三年六月
內務省令第三〇號

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラムネ」「リモナーデ」
(果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム)曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ヲ謂フ

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造(清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ採取ヲ含ム以下條之)、販賣又ハ請賣
ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ檢
査セシムヘシ

第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタ
ル調製器、容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ス、但シ鑛錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナ
キ方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素「サツ
カリン」其他人工甘味質、有害性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス
「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖トモ製造地地方長官ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ
之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若
ハ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 溷濁又ハ變敗シタルモノ
- 二 沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ
- 三 鹽酸、硫酸及其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ
- 四 砒素、安知母紐謨、鉛、鉛亞、銅、錫ヲ含有スルモノ
- 五 有害性其他製造地又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサル色素ヲ含有スルモノ
- 六 「サツカリン」其他同甘味質ヲ含有スルモノ

清涼飲料水營業取締規則

七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
八 防腐劑ヲ含有スルモノ

第六條 清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ 但製造地地方長官ニ於テ許可シタルモノニ就テハ此ノ限リニアラス 「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ製造者又ハ其容器ニ人工着色ノ文字ヲ明記スヘシ

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス 清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條 地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年ニ法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ノ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十條 地方長官ハ本則ノ施行ニ關シテハ明治三十三年ニ法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 清涼飲料水營業者虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十二條 左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
一 認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者

第十三條 第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 清涼飲料水營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス 但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (三十九年六月省令九號追加)

清涼飲料水營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十五條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス 但シ「ラムネ」ニ關シテハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●清涼飲料水營業取締ニ關スル施行規則

明治三十三年七月
勅令第三二號

(イ)明治四十三年五月
勅令第三三號

- 第一條 清涼飲料水ノ製造販賣營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製造ノ原料及用水ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 製造場ノ地名、番號及圖面
 - 二 製造場ノ構造仕様書及圖面
 - 三 機械ノ種類、圖面、個數、構造ノ大要ヲ記シタル仕様書並使用ノ最大壓力 但シ機械中壓力ヲ受クル部分ハ其構造ヲ詳記シタル仕様書及圖面
 - 第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ變更ニ係ル事項ヲ具シ認可ヲ受クヘシ原料又ハ用水變更ノ場合ニ在リテハ其ノ原料又ハ用水ヲ提出スルコトヲ要ス(イ)
 - 四 用水採取地ノ地名、番號
 - 五 落成期日
- 製造機械ノ構造ニ依リ一定ノ製造場ヲ要セサルモノハ前項第一號第二號及第五號ノ事項ヲ具スルヲ要セス
- 汽罐汽機ヲ裝置セムトスル者ハ本則ニ依ルノ外仍明治二十七年四月警視廳令第二十四號汽罐汽機取締規則ニ依ルヘシ
- 第二條 前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ其證ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第三條 警視廳ハ臨時主務官吏ヲ派シ製造場及製造機械ノ検査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

検査ノ際ハ主務官吏ノ指示ニ從フヘシ

第四條 製造機械ノ壓力ヲ受クル局部及瓶詰ヲ爲ス機械ノ局部ハ適當ナル危険豫防ノ装置ヲ爲スヘシ

混合器ニハ安全弁及壓力計ヲ備フヘシ

第五條 炭酸含有ノ清涼飲料水製造ニ要スル炭酸瓦斯ハ適當ナル除害液ヲ貯ヘタル器中ヲ通過セシムヘシ 但シ既ニ精製シタル炭酸瓦斯ヲ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 製造場ノ地盤ハ不透透質ノ材料若ハ厚板ヲ以テ敷設シ排水溝ヲ設ケ場内ハ空氣ノ流通ニ便ナル装置ヲ爲スヘシ

第七條 正常ノ事由ナクシテ左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ一部又ハ全部ノ使用ヲ停止シ若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一 落成期日ヲ經過シ仍落成セサルトキ

二 製造場又ハ機械ノ改修ヲ命セラレ之ニ應セサルトキ

第八條 清涼飲料水ノ請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ豫メ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條 清涼飲料水ノ容器ノ種類又ハ製造販賣ノ方法ニ依リ容器ニ封緘ヲ施サシテ販賣セントスル者ハ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ

第九條ノ二 自動計量器ヲ用キ清涼飲料水ヲ販賣セムトスル者ハ器械ノ構造ヲ詳記シタル圖面ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出検査濟ノ烙印ヲ受クヘシ

第九條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ

一 營業者ノ相續人ニ於テ營業ヲ繼續セムトスルトキ

二 製造場ヲ讓受ケ營業セムトスルトキ
前項ノ願書ニハ新舊營業者ノ連署ヲ要ス 但シ第一號ノ場合ニ於テ前營業者死亡又ハ失踪ニ係ルトキハ其ノ旨ヲ記スヘシ(イ)

第九條ノ四 左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ 但シ第三號ノ場合ニ在リテハ戸籍法ニ依ル届出義務者ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 營業者住所氏名ヲ變更シタルトキ

二 廢業シタルトキ

三 死亡又ハ失踪シタルトキ(イ)

第十條 本則ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス 但シ明治三十三年六月内務省令第三十號清涼飲料水營業取締規則ニ正條アルモノハ各其ノ定ムル所ニ從フ

附 則

第十一條 本則ハ「ラムネ」ニ關シテハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ「リモナイデ」(果實水・薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム)曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ニ關シテハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本則ニ抵觸スル製造場及機械ハ明治三十四年五月三十一日マテニ改造スヘシ

第十三條 明治二十九年十一月十一號警視廳令第五十一號沸騰飲料水營業取締規則ハ(ラムネ)ニ關シテハ本令發布ノ日ヨリ其ノ他ニ關シテハ本年八月三十一日ヨリ廢止ス

牛乳營業取締規則

明治三十三年四月 内務省令第一五號 (イ)明治四十三年五月 内務省令第十七號

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脫脂乳ヲ云ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル練乳脫脂煉乳及紛乳ヲ云フ牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取製造販賣又ハ諸賣ヲ營業トスルモノヲ云フ(イ)

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニアリテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脫脂乳ニ在リテハ一・〇三二乃至一・〇三八トス全乳ノ脂肪量ハ百分中三〇分以上ノ範圍ニ於テ地方長官其ノ程度ヲ定ムヘシ(イ)

脫脂乳ノ乾燥物質量ハ百分中八・五分以上トス(イ)
(牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在リテハ百分中二・七分以上脫脂乳ニ在リテハ百分中〇・五分以上ノ範圍ニ於テ地方長官其ノ程度ヲ定ムヘシ明治四十三年十二月三十一日迄本項適用)

第三條 煉乳ノ脂肪量ハ百分中八・分以上トス

煉乳又ハ脫脂煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五〇分以下トス

牛乳營業取締規則

ス(イ)

第四條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備ヲ検査セシムヘシ

第五條 牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス

一 牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性鵝口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃胆、「アクチノミコーゼ、氣腫疽、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、「ア布答、腐敗性子宮炎、其他熱性諸病ニ罹レル牛

二 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ牛

三 分娩後七日以内ノ牛

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附不良ニシテ且有害ノ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ含鉛珪瑯ヲ塗布シタル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス

第七條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 粘稠若クハ苦味ナルモノ又ハ藍色赤色其他異常ノ色ヲ呈スルモノ

三 他物ノ混合シタルモノ

四 第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ

五 第二條ノ規定ニ適合セザルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス

第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若クハ貯藏スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 他物ノ混合シタルモノ

三 第六條ノ容器ヲ用キタルモノ

四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ

五 第三條ノ規定ニ適合セザル煉乳又ハ脫脂煉乳(イ)

第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脫脂乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ

容器ニハ煉乳脫脂煉乳ノ容器ニハ脫脂煉乳タルコトヲ明記スベシ

牛乳營業者ハ全乳ト記シタル容器ニ脫脂煉乳ト記シタル容器ニ脫脂煉乳ヲ容ル、

コトヲ得ズ(イ)

第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ製乳品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所

ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ其疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ

第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一

定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其角ニ番號若クハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其符號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得
前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳、乳製品、第七條各號ノ牛乳、第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十八條 左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス 但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(三十九年六月省令第七號追加)

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ受カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第二十一條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 乳牛ノ牛舎及牛乳搾取若ハ乳製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム

第二十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●牛乳營業ニ關スル施行規則

明治三十三年七月
廳令第三一號

第一條 本則ニ於テ牛乳搾取所ト稱スルハ牛舎、運動場及附屬建物ヲ總稱ス

第二條 牛乳ノ脂肪量ハ左ノ程度ニ依ルヘシ

全乳 百分中三〇分以上

脱脂乳 百分中〇・五分以上

第三條 牛乳搾取又ハ乳製品製造營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ其ノ搾取所又ハ製造所ノ移轉、讓受又支所ノ設置、構造ノ増減、變更ヲ要スルトキハ亦同シ 但シ牛乳搾取所ハ土地ノ狀況ニ依

牛乳營業取締ニ關スル施行規則

リ其設置ヲ認可セサルコトアルヘシ

- 一 乳牛、種牛及犢牛ノ豫定頭數
- 二 搾取所製造所ノ位置、構造仕様書、圖面及運動場ノ坪數
- 三 乳製品ノ種類及其ノ製造方法並機械ノ構造
- 四 落成期日

第四條 第三條第三號ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

第五條 第三條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出使用ノ認可證ヲ受クヘシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ認可ヲ取消シ又ハ搾取所ノ移轉、改造ヲ命シ若ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

- 一 正當ノ事由ナクシテ落成期日ヲ經過シタルトキ
- 二 土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認めタルトキ
- 三 牛乳搾取所若ハ乳製品製造所ノ修繕又ハ掃除ヲ命セラレ之ニ應セサルトキ

第七條 牛乳請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ搾取所ノ地名及搾取營業者ノ氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ牛乳搾取營業者ニシテ別ニ販賣店ヲ設ケムトスルトキ亦同シ

第八條 牛乳搾取所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 東京市郡部接近人家稀疎ノ地ヲ除クニ在リテハ
 - 一 周圍ノ外部ニハ五間以上ノ空地ヲ存スルコト
 - 二 周圍ニハ石、煉瓦又ハ金屬ヲ以テ高サ九尺以上ノ塙塀ヲ設クルコト 但シ周

圍ノ外部五間以上ヲ距テ本號ノ塙塀ヲ設クルモノハ其内部搾取所ノ周圍ニ適宜ノ塙塀ヲ設クルコト

三 牛舎ハ屋棟及周圍土壁上七八寸ノ部位ニ空氣ヲ流通セシムヘキ裝置ヲ爲スコト

四 牛室ハ一頭毎ニ幅五尺奥行八尺以上ノ區域ヲ爲シ前方ニ四尺以上後方ニ二尺以上ノ餘地ヲ存スルコト

五 牛室ノ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ其表面ニハ厚板ヲ張り適宜ノ勾配ヲ附スルコト

六 牛室ニ沿フテ尿樋ヲ設ケ尿汁ヲ舍外ノ尿溜ニ注流セシムル裝置ヲ爲スコト

七 尿樋及尿溜ハ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ金屬其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ構造シ尿溜ノ位置ハ牛舎ヲ距ル三尺以上ト爲シ且適當ノ覆蓋ヲ設クルコト

八 糞及不潔物溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造シ且適當ノ雨除ヲ設ケ其ノ位置ハ牛舎ヲ距ル三尺以上ト爲スコト

九 運動場ハ飼養牛ノ頭數ニ應シ相當ノ面積ヲ有シ且適當ノ排水溝ヲ設クルコト

二 東京市ニシテ郡部接近人家稀疎ノ地及郡部市街地ニ在リテハ

- 一 周圍ノ外部ニハ三間以上ノ空地ヲ存スルコト
- 二 周圍ニハ石、煉瓦、金屬又ハ厚板ヲ以テ高サ六尺以上ノ塙塀ヲ設クルコト 但シ周圍ノ外部三間以上ヲ距テ本號ノ塙塀ヲ設クルモノハ其内部搾取所ノ周圍ニ適宜ノ塙塀ヲ設クルコト

三 牛舎、牛室、尿桶、尿樋、糞及不潔物溜及運動場ハ第一號ノ制限ニ依ルコト 但土地ノ狀況ニ依リ不滲透質ノ材料ヲ用ウル部分ハ厚板ヲ用ウルコトヲ得

三 第一號及第二號以外ノ地ニ在リテハ

- 一 周圍ニハ土地ノ狀況ニ依リ相當ノ空地ヲ存スルコト
- 二 周圍ニハ適宜ノ圍ヲ設ケ運動場ノ周圍ニハ畜牛ノ逸走ヲ防クヘキ柵ヲ設クルコト
- 三 牛舎、牛室、尿樋、尿溜、糞及不潔物溜及運動場ハ第二號ノ制限ニ依ルコト

第九條 牛舎、運動場其他搾取所ノ構内及乳製品製造所ハ常ニ清潔ニ掃除シ且牛室内ハ時時清水ヲ以テ洗滌シ尿溜糞及不潔物溜ハ充溢セサル様時時掃除スヘシ

第十條 糞尿ニ浸染シタル汚穢ノ蓐藁ハ時時清潔ナルモノト交換スヘシ

第十一條 牛乳搾取所ニハ自己ノ所有ニシテ乳牛並乳牛用ニ充ツヘキ種牛、犢牛ノ外飼養スルコトヲ得ス

第十二條 牛乳搾取所ニハ牛籍簿ヲ備ヘ置キ乳牛、種牛ノ検査番號、年齢、毛色及產地、前所有者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ其ノ異動アリタルトキハ直ニ更正スヘシ

第十三條 乳牛、種牛ニ増減アリタルトキハ左ノ事項ヲ記シ三日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ

一 検査番號

二 受授ニ係ルモノハ前後所有者ノ住所氏名

三 斃死ニ係ルモノハ獸醫ノ診斷書

第十四條 警視廳ハ臨時主務官吏ヲシテ乳牛及種牛ニ其ノ角若ハ蹄ニ烙印ヲ烙シムヘシ

前項ノ烙印ハ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス

第十五條 傳染性ノ疾病ニ罹リタル牛ヲ隔離セムトスルトキハ其牛ノ検査番號、病名及隔離所地名ヲ記シ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十六條 検査ノ際畜牛ノ取扱ハ總テ主務官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第十七條 乳牛ニ結核病ノ疑アリト認メタルトキハ「ツベルクリン」ヲ注射スルコトアルヘシ

結核病ノ疑アリト認メラレタル乳牛ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他ニ移轉シ又ハ其ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

第十八條 畜牛疾病ノ徴アルトキハ速ニ獸醫ノ診察ヲ受ケ明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第一號ノ疾病ナルトキハ診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十九條 乳牛、種牛及犢牛ハ日日清潔ニ梳拭シ且適當ノ運動ヲ爲サシムヘシ

第二十條 搾取者ハ衣服及身體ヲ清潔ニシ乳牛ノ乳房及其周邊ヲ洗滌シ汚物ヲ乳汁ニ混入セシムヘカラス

第二十一條 乳製品ニハ其容器ニ製造營業人ノ住所氏名及製造ノ年月日ヲ標記スヘシ

第二十二條 牛乳ノ容器ニハ覆栓ヲ爲スヘシ

覆栓ニハ紙又ハ布片ヲ用ウヘカラス

第二十三條 牛乳ノ容器及量器ハ使用ノ都度清潔ニ洗滌スヘシ

第二十四條 牛乳配達人ニハ左ノ様式ノ標札ヲ携帯セシムヘシ

(標札様式) (木製)

表 面

住所氏名 牛乳營業(請賣)者

裏 面

住所 牛乳配達人氏名

竪三寸
横二寸

第二十五條 搾乳高及乳製品ノ種類並其製造高ハ毎月所轄警察官署ヲ經テ警視廳ニ届出シヘ

第二十六條 本則ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス但シ明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則ニ正條アルモノハ各其ノ定ムル所ニ從フ

附 則

第二十七條 本則ハ本令發布ノ日ヨリ施行ス

第二十八條 本則施行ノ際現ニ牛乳搾取營業ヲ爲ス者ニシテ搾取所ノ位置、構造本則第八條ノ制限ニ適合セサルモノハ明治三十五年六月三十日マテニ移轉又ハ改造スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認メタルトキ又ハ燒失崩壞ニ係リタルトキハ本條ノ期限内ト雖トモ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

本則施行ノ際現ニ乳製品製造營業ヲ爲ス者ニシテ施行後其營業ヲ繼續セムトスル者ハ明治三十三年七月三十一日マテニ本則第三條ノ手續ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 明治二十四年四月警察令第四號牛乳營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 獸肉營業取締規則

明治四十一年七月
廳令第二二號

第一條 本則ニ於テ獸肉ト稱スルハ食用ニ供スル牛羊豕馬及野獸ノ生肉ヲ謂フ

第二條 獸肉營業ヲ爲サムトスル者ハ族籍、住所、營業所、氏名、生年月日及肉種ヲ開業前營業所所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三條 獸肉ヲ行商配達セムトスル者又ハ他人ヲシテ行商、配達セシメムトスル者ハ營業所所轄警察官署ニ届出一人毎ニ左記雛形ノ木札ニ烙印ヲ受ケ就業中之一ヲ携帯シ又ハ携帯セシムヘシ但シ木札ハ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

三寸

表

牛、羊、豕 馬、野獸 肉行商(配達)ノ證 住所氏名

二寸

裏

住所 獸肉營業者氏名

- 第四條 未成年者又ハ禁治産者ノ爲ス届書ニハ法定代理人、準禁治産者ノ爲ス届書ニハ保佐人、妻ノ爲ス届書ニハ夫ノ連署ヲ要ス
- 第五條 牛肉ト馬肉トハ同一ノ營業者ニ於テ販賣スルコトヲ得ス
- 第六條 牛羊豕及馬ノ肉ハ明治三十九年六月内務省令第十六號屠場法施行規則第十一條ノ檢印アルモノニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス
外國ヨリ輸入シタル獸肉ハ最初到着地所轄警察官署ノ検査ヲ受ケタル後ニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス
- 第七條 獸肉ハ塵埃蚊蠅等ノ附著ヲ防クニ足ルヘキ装置ヲ有スル場所ニ置クヘシ
- 第八條 獸肉置場及獸肉容器、運搬器其ノ他衛俎等ハ常ニ清潔ニ爲スヘシ
- 第九條 結核、癩、微毒其ノ他傳染病又ハ傳染性皮膚病ニ罹リタル者ハ獸肉ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十條 左ノ場合ニ於テハ十日以内ニ營業所所轄警察官署ニ届出ヘシ 但シ第五號ノ場合ニハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲シ行商者若ハ配達者ノ死亡、解雇、所在不明及營業者ニシテ自ラ行商ヲ爲ス者ノ廢業シタル際ハ木札ノ消印ヲ受クヘシ
 - 一 獸肉營業者ノ族籍、住所、營業所、氏名又ハ販賣ノ肉種ヲ變更シタルトキ
 - 二 行商者又ハ配達者ノ木札面ニ異動ヲ生シ又ハ毀損亡失シタルトキ
 - 三 法定代理人、保佐人、夫ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 四 廢業シタルトキ
 - 五 營業者、行商者死亡シ又ハ所在不明ト爲リタルトキ

- 第十一條 食用ニ供スルノ目的ヲ以テ他管下ヨリ獸肉ヲ輸入シタルトキハ其ノ輸出地牝牡ノ別及斤量ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ第六條第二項ノ獸肉ニ關シテ亦同シ
- 第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ若ハ禁止シ又ハ木札ノ烙印ヲ消除スルコトアルヘシ法定代理人、保佐人、夫ニシテ之ニ該當スルトキ亦同シ
 - 一 法定代理人、保佐人ノ同意、夫ノ許可ヲ取消サレタルトキ
 - 二 所在不明ト爲リタルトキ
 - 三 就業上不適當ト認ムルトキ
- 第十三條 本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトアルヘシ
- 第十四條 前條ノ検査ニ依リ食用ニ供スヘカラスト認メタル獸肉ニ對シテハ明治三十三年二月法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトアルヘシ本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ
- 第十五條 腐敗シタル獸肉ヲ販賣シタル者及本則ニ違背シタル者又ハ營業ノ停止若ハ禁止ノ命令ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第十六條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス 但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス
- 第十七條 營業者ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十八條 明治二十二年七月警察令第二十五號賣肉取締規則ニ依リ既ニ届出ノ手續ヲ爲シタル者ハ本則ノ營業者ト見做ス

第十九條 明治二十二年七月警察令第二十五號賣肉取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●氷雪營業取締規則

明治三十三年七月 內務省令第三七號

第一條 本則ニ於テ氷雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ
氷雪營業者ト稱スルハ氷雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其ノ卸賣若ハ請買ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 氷雪營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ 但シ請買營業ヲ爲サムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス
地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備並ニ材料ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第三條 氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス
氷雪融解水ノ百萬分中格魯兒量ハ二分硝酸量ハ一分安母尼亞量ハ〇、〇五分過滿俺酸加留謨消費量ハ三分亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

第四條 氷雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル氷雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 飲食用ノ氷雪ヲ請買スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ヘラス
第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治二十三年^{二月}法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

一 氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

二 第五條ノ營業者販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年^{二月}法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第八條 第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 氷雪營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス 但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス^(三十九年六月省令一〇號追加)
氷雪營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ

於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十一條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス 但シ雪ニ關シテハ明治三十
五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則ノ規定施行ニ至ルマテ地方長官ハ必要ナル取締規則ヲ設ケ明治三十三年^ニ法律
第十五號ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十二條 地方長官ハ氷雪ノ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備及管理方法ニ關
シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●水營業取締ニ關スル施行規則

明治三十三年八月
廳令第三六號

第一條 氷ノ採收、製造營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ原水ヲ添へ所轄警察
官署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ増減變更セムトスルトキ亦同シ
一 採收場、製造場及貯藏場ノ地名、番號及圖面

二 採收場、製造場及貯藏場ノ構造仕様書及圖面

三 機械ノ種類、圖面、箇數、構造ノ大要ヲ記シタル仕様書並使用ノ最大壓力 但
シ機械中壓力ヲ受クル部分ハ其ノ構造ヲ詳記シタル仕様書及圖面

四 原水採收地ノ地名、番號

五 落成期日

汽罐汽機ノ裝置ニ關シテハ本則ニ依ルノ外仍明治二十七年^四月警視廳令第二十四號汽
罐汽機取締規則ニ依ルヘシ

第二條 採收場ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ 但シ河川ヲ劃シ一時氷ヲ採收セ
ムトスルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 氷池ノ周縁ハ他ノ地盤ヨリ高クスルコト

二 氷池ハ不滲透質ノ材料又ハ厚板ヲ以テ構造スルコト 但シ底部ヲ厚板ニスルモ
ノハ其ノ板張ト地盤トノ間ハ若干ノ空隙ヲ存スルコト

第三條 氷池ハ洗滌ニ便ナル様適宜ノ裝置ヲ爲スコト

一 必要ナル出入口ノ外他ノ倉庫等ニ通スヘキ出入口等ヲ設クヘカラサルコト

二 貯藏場ノ地盤ハ不滲透質ノ材料又ハ厚板ヲ以テ敷設シ適宜ノ勾配ヲ付シ排水溝
ヲ設クルコト 但シ特殊ノ構造ニ係リ且隣地ヲ汚ス虞ナキモノハ其ノ限ニ在ラス

第四條 採收場、製造所及貯藏場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ警視廳
ニ届出使用ノ認可證ヲ受クヘシ

- 第五條 採收場、製造場及貯藏場ノ構造ニ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修繕ヲ加フヘシ
- 第六條 採收場ハ採收毎ニ残水ヲ排除シ採收場ヲ洗滌スヘシ
- 第七條 他管下ヨリ氷ヲ輸入シタルトキハ斤量ノ概數及貯藏場所在地名ヲ汽車積ノモ
ノハ停車場、船積ノモノハ陸揚場、車積ノモノハ荷著地所轄警察官署ニ書面又ハ口
頭ヲ以テ届出ヘシ
- 第八條 氷ノ卸賣營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ採收、製造ニ依ルト又ハ他管下ヨリ輸
入シタルモノトニ拘ラス現品ヲ添ヘ產地、斤量及貯藏場所在地名ヲ記シ所轄警察官
署ヲ經テ警視廳ニ願出認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ貯藏場ニ關シテハ第一條及第三條乃至第五條ヲ準用ス(三十五年二月廳令第一
號ヲ以テ本項追加)
- 第九條 第八條ニ依リ認可ヲ受ケタル氷ヲ請賣セムトスル者ハ其ノ旨ヲ所轄警察官署
ニ届出ヘシ
- 第十條 貯藏場ノ氷ヲ他ノ貯藏場ニ移サムトスルトキハ運搬前原貯藏場ノ所轄警察官
署ニ届出ヘシ
- 第十一條 第八條ノ認可ヲ受ケタル氷ト其ノ認可ヲ受ケサル氷トヲ同一ノ貯藏場ニ貯
藏スルコトヲ得ス
- 第十二條 採收地又ハ製造場ヲ異ニスル氷ヲ同一ノ貯藏場ニ貯藏セムトスルトキハ其
ノ採收地又ハ製造場ノ異ナル毎ニ適宜ノ區劃ヲ爲スヘシ
- 第十二條ノ二 飲食用ニ供スル氷ノ貯藏場、運搬器及販賣店ニハ「飲食用氷貯藏場」、
「飲食用氷運搬器」及「飲食用氷販賣店」ノ文字ヲ明記シ其ノ飲食用以外ニ供スルモノ
ニ在リテハ「雜用氷貯藏場」、「雜用氷運搬器」及「雜用氷販賣店」ノ文字ヲ明記スヘシ

前項ノ文字ハ貯藏場、販賣店ニ在リテハ其ノ最モ親易キ所ニ左ノ様式ニ依リ看板ヲ
掲クヘシ(三十五年八月廳令三
八號ヲ以テ本條追加)

(看板様式)木製又ハ金屬製

□ 飲食用(雜用)氷貯藏場(氷販賣店)
 豎五尺
 幅壹尺

- 第十三條 左ノ場合ニ於テハ認可ヲ取消シ又ハ採收場、製造場及貯藏場ノ移轉、改造
ヲ命シ若ハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
 - 一 正當ノ事由ナクシテ落成期日ヲ經過シタルトキ
 - 二 土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認めタルトキ
 - 三 採收場、製造場及貯藏場ノ改修若ハ掃除ヲ命セラレ之ニ應セサルトキ
- 第十四條 本則ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
但シ明治三十三年七月内務省令第三十七號氷雪營業取締規則ニ正條アルモノハ其ノ定
ムル所ニ從フ

附 則

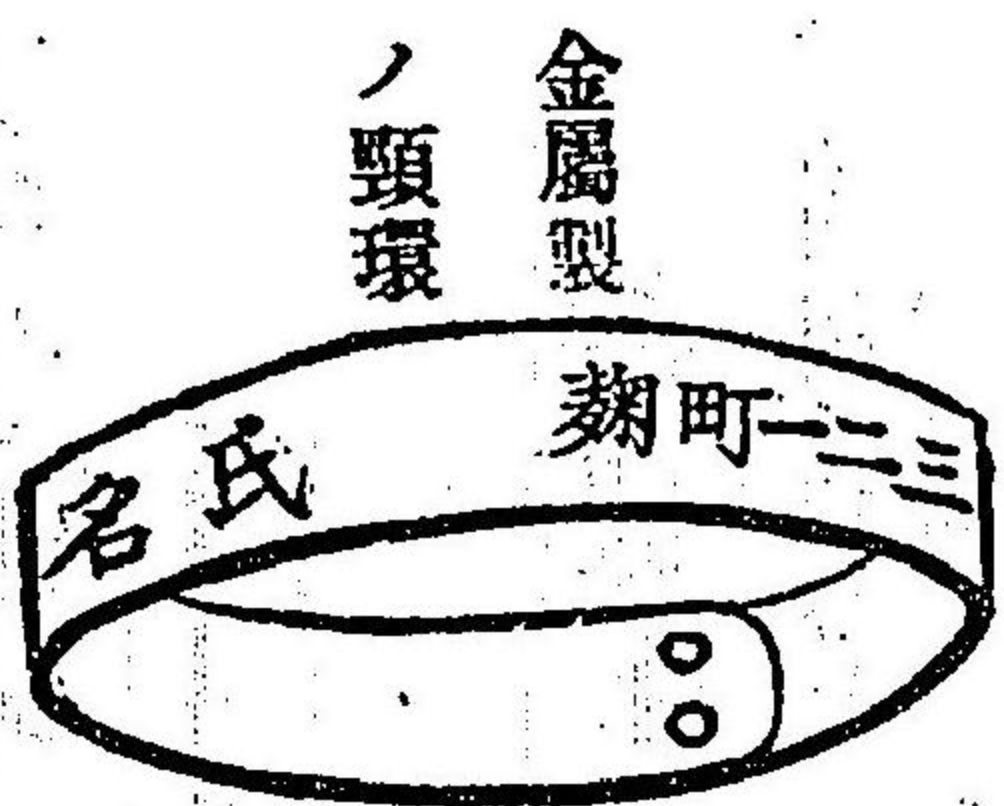
第十五條 從來ノ氷採收場及氷製造場及貯藏場ノ位置構造並機械ノ構造本則ノ適合セ

サルモノハ明治三十四年十月三十一日マテニ改造スヘシ
第十六條 明治二十六年十月警察令第三十一號氷雪營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

●畜犬取締規則

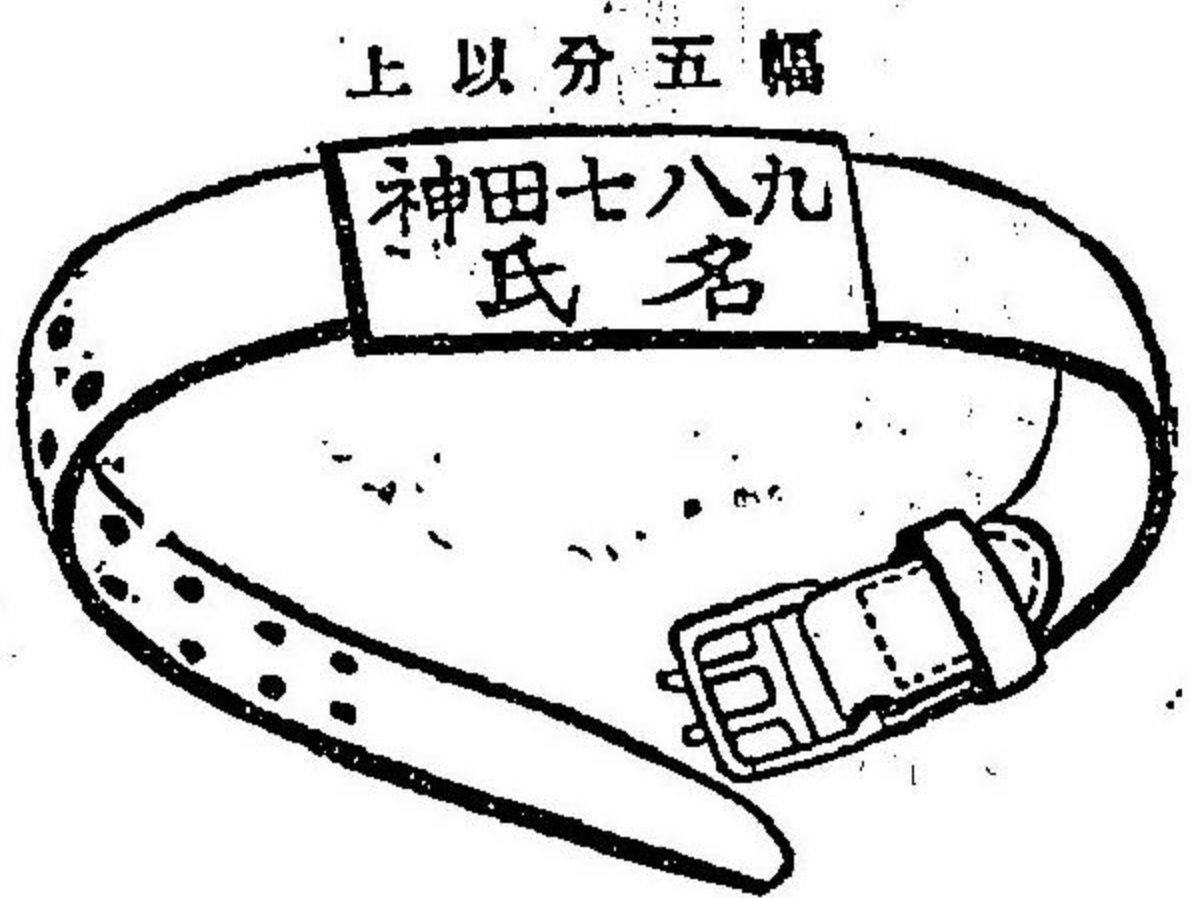
明治三十六年四月 改正略符(イ)四十一年九月 令五二號
令第二八號 (ロ)四十二年五月 令一六號

- 第一條 犬ヲ飼養スル者ハ其ノ頭數、名稱、種類、牝牡ノ別、毛色、年齢及特徴ヲ記シ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ(る)
- 左ノ場合ニ在リテハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 一 畜犬ノ飼養ヲ廢止シタルトキ
 - 二 畜犬ノ所在不明トナリタルトキ
 - 三 所在不明トナリタル畜犬ヲ發見シタルトキ
 - 四 畜犬斃死シタルトキ
- 第二條 畜犬ニハ其ノ飼主ノ氏名ヲ記シタル頸環ヲ附著スヘシ(る)
- 前項ノ頸環ハ前條第一項届出ノ際所轄警察官署ニ提出シテ左記雛形ノ刻印番號ヲ受クルヲ要ス



齋町警察署第百二十三號ノ例

芝警察署四百
五十六號ノト
キハ芝四五六
ト刻印ス其ノ
他總テ此例ニ
準ス



金屬製ニアラサ
ルモノハ刻印番
號ヲ施シ得ヘキ
適當ノ金屬ヲ以
テ覆ヒ又ハ箱入
スルコト
金屬製ニアラサ
ル頸環

幅五分以上

第三條 人畜ヲ咬傷スルノ虞アル畜犬ニハ其ノ飼主ニ於テ口網又ハ箝口具ヲ施スヘシ

(イ)

警察官吏ニ於テ必要ト認メタルトキハ前項ノ施行ヲ飼主ニ命スルコトアルヘシ

第四條 警察官署ニ於テ逸走ノ畜犬ト認メタルトキハ七日以内警視廳内ニ繫留シ明治

三十二年三月法律第八十七號遺失物法ニ依リ處分ス

第五條 第一條ノ届出ハ警察支署、巡查派出所、巡查駐在所又ハ巡查交番所ニ之ヲ爲スコトヲ得(る)

畜犬取締規則

第一條 第二項ノ届出ハ口頭又ハ電話ヲ以テスルコトヲ妨ケス
 第六條 第一條第一項、第二條、第三條第一項ニ違背シタル者又ハ第一條第二項第三號ノ届出ヲ爲ササル者若ハ第三條第二項ノ命令ニ従ハサル者ハ科料ニ處ス(ろ)

附 則

本令ハ明治四十二年五月三十一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前既ニ届出飼養スル者ハ本令第一條第一項ニ依リ届出ヲ爲シタルモノト看做ス
 前項ニ該當スル者ハ明治四十二年六月三十日マテニ所轄警察官署ニ頸環ヲ提出シテ第二條第二項ニ定メタル雛形ノ刻印番號ヲ受クヘシ

畜犬取締ノ件廳令

明治四十二年四月 廳令第十一號

狂犬病豫防ノ爲畜犬、其ノ所有者又ハ管理者ニ於テ緊留スヘシ 但シ適當ノ柵圍内ニ在ルモノ、戸締ヲ爲シタル家屋内ニ在ルモノ又ハ口網若ハ箆口具ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 獵犬ニ在リテハ獵場ニ限リ前項ノ規定ヲ適用セス

本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 本令ハ東京市及荏原郡、豊多摩郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡ニ之ヲ施行ス

理髮營業取締規則

明治三十四年三月 廳令第一一號

第一條 本則ニ於テ理髮營業ト稱スルハ店舗ヲ構フルト否トニ拘ラス剪髮又ハ結髮ヲ爲ス營業ヲ謂フ
 第二條 理髮營業ヲ爲サムトスル者ハ住所、氏名及店舗ノ所在地ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 前項届出ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
 第三條 肺結核、癩癩病又ハ皮膚ニ疾患アル者ハ理髮ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス
 第四條 理髮ノ業務ニ從事スル者ハ執業中清潔ナル被服ヲ着用スヘシ
 第五條 理髮ノ業務ニ從事スル者ハ一客ノ理髮ヲ了ル毎ニ石鹼ヲ以テ其ノ手ヲ洗淨且左ノ藥品ノ一ヲ以テ其ノ器具ヲ洗滌スヘシ
 一 「フオルマリン」液(百分中一分ノ「フオルムア」)
 一 「フオルマリン」液(百分中一分ノ「フオルムア」)
 一 石炭酸水(二十倍)

一 炭酸書達液(百分中五分ノ炭酸)

第六條 理髮ノ業務ニ従事スル者皮膚ニ疾患スル客ニ接シタルトキハ前條藥品ノ一ヲ以テ其ノ手ヲ洗淨シ且左ノ方法ノ一ニ依リ其ノ器具ヲ消毒スヘシ被服、被布、手拭、頸卷ノ類亦同シ

一 「フオルムアルデヒット」瓦斯消毒法

一 蒸汽消毒法

一 煮沸消毒法

一 「フオルマリソ」液(百分中一分ノ「フオルムア」及石炭酸水(二十倍)中ニ二十分間以上浸漬スルコト)

第七條 營業ニ使用スル被服、被布、手拭、頸卷ノ類ハ常ニ清潔ニ洗濯スヘシ

第八條 店舗内、流シ場及客ニ供用スル椅子、手水鉢其ノ他ノ器具ハ常ニ清潔ニ掃除スヘシ

第九條 本則ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十條 雇人、助手若ハ徒弟ニシテ本則ニ違背シタル者アルトキハ前條ノ科料ヲ營業者ニ適用ス

附 則

第十一條 現在ノ理髮營業者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ第二條第一項ノ届出ヲ爲スヘシ

●清潔保持ニ關スル取締規則

明治三十三年五月 廳令第一八號

第一條 建物ノ所有者又ハ土地ノ所有者ニ於テ築造スヘキ溝渠ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 石、煉瓦石又ハ紬藥ヲ施シタル陶器若ハ鐵管ヲ以テ構造シ其ノ接合部ハ鐵管ニ係ルモノハ金屬ノ接合劑ヲ用キ其他ノモノハ「セメント」、「モルタル」又ハ「コンクリート」ヲ用ユヘシ 但シ露出スル溝渠ハ厚板ヲ用ウルコトヲ得ル

モ底ヲ設ケ汚水ノ漏泄セサル様構造スヘシ

二 幅及深サハ水量ニ應シテ構造シ且適當ノ勾配ヲ附シ汚水ノ疏通ニ便ナラシムヘシ

第二條 土地ノ狀況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄シ難キトキハ警察官署ノ許可ヲ得テ汚水溜ヲ設クルコトヲ得

汚水溜ハ不滲透質ノ材料又ハ木材ヲ以テ構造シ且適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ 但シ木材ヲ以テ構造シタルトキハ其ノ内外ニ「コールタール」ヲ塗布スヘシ

汚水溜ノ汚水ハ充溢セサル様汲ミ取り公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スヘシ

第三條 左ニ掲クル汚水ハ掃除義務者ニ於テ本條所定ノ方法ニ依リ處置シ公共溝渠ニ排泄スヘカラス

一 劇毒性ノ物質ヲ含有スルモノ

清潔保持ニ關スル取締規則

- 二 甚シキ臭氣ヲ發スルモノ
 - 三 多量ノ沈澱物ヲ混スルモノ
 - 四 死體解剖ニ因リ生シタルモノ
 - 五 外科手術ニ因リ生シタルモノ
 - 六 死體湯灌ニ因リ生シタルモノ
 - 七 前各號ノ外警察官署ニ於テ有害ト認タルモノ
- 本條第一號第二號第四號第五號及第六號ノ汚水ハ警察官吏ノ承認ヲ得タル場所ニ排棄スヘシ 但シ相當ノ消毒ヲ爲シタルモノハ直ニ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スルコトヲ得
- 第三號ノ汚水ハ市設ノ汚泥取扱場ニ搬出スヘシ 但シ沈澱物ヲ濾過シタルモノハ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排棄スルコトヲ得
- 第七號ノ汚水ハ警察官署ノ指定シタル方法ニ依リ處置スヘシ
- 第四條 掃除義務者ニ於テ備フヘキ塵芥容器ハ陶器、金屬製又ハ木製ニシテ覆蓋ヲ有シ汚水ノ漏泄セサルモノヲ用ウヘシ
- 第五條 掃除義務者ハ場所ノ狀況ニ依リ數人共用ノ塵芥容器ヲ用ウルコトヲ得
- 第六條 塵芥運搬容器及汚泥運搬容器ハ堅牢ニシテ汚物ノ排泄セサル様構造シ且適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ
- 第七條 塵芥取扱場及汚泥取扱場ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
- 一 人家ヲ距ルコト十間以上 但シ土地ノ狀況ニ依リ其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得
 - 二 飲料井戸ヲ距ルコト五間以上 但シ井戸ノ構造特殊ニシテ汚物混入ノ虞ナキモノハ其ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

- 三 取扱場ノ周圍及地盤ハ石、煉瓦石、「セメント」「コンクリート」敷又ハ厚板トナシ適當ノ屋根ヲ設クルコト
- 第八條 塵芥焼却場ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
- 一 市街地外又ハ市街地内村落ニ接近シ人家稀疎ノ地ニシテ人家及道路ヲ距ルコト三十間以上飲料井戸ヲ距ルコト五間以上
 - 二 周圍ニハ高サ九尺以上ノ塙壁ヲ設クルコト
 - 三 焼却竈ハ高サ五十尺以上ノ煙突ヲ設ケ消煙ノ裝置ヲ爲スコト
- 第九條 市町村ニ於テ塵芥取扱場塵芥焼却場及汚泥取扱場ヲ設ケントスルトキハ其ノ位置構造仕様書及圖面ヲ具シ警視廳及東京府廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十條 廁間ヲ建設セントスル者ハ位置及構造方法ヲ記シ圖面ヲ添へ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ改造變更セムトスルトキ亦同シ
- 前項ノ工事落成シタルトキハ其ノ使用前所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ(三十八年三月九號ヲ以テ)
- 第十一條 廁間ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ 但シ特殊ノ裝置ニシテ周圍ノ土地ヲ汚ス虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 飲料井戸ヲ距ルコト三間以上
 - 二 地盤ヨク三寸以上ヲ高クスルコト
 - 三 尿管ハ内外ニ軸藥ヲ施シタル甕其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルコト
 - 四 尿管ハ内外ニ軸藥ヲ施シタル甕其ノ他不滲透質ノ材料ヲ以テ構造スルコト

清潔保持ニ關スル取締規則

「シクリート」敲ト爲スコト

第十二條 尿尿運搬容器ハ堅牢ニシテ密閉スヘキ覆蓋ヲ備ヘ臭氣及汚液ノ洩漏泄セサル様構造スヘシ

第十三條 尿尿船ハ明治二十三年二月警視廳東京府告示第二號所定ノ糞尿船繫留所以外ニ繫留スヘカラス

第十四條 尿尿ハ運搬容器ノ儘ニ非サレハ尿尿船ニ積載スルコトヲ得ス 但シ特ニ警視廳ノ許可ヲ得タル構造設備ノ尿尿船ニ在テハ此ノ限ニ非ラス(三十七年廳令一七號、同一九號、三十九年同四號改正)

第十五條 尿尿ヲ汲取リタルトキハ其ノ汲取人ニ於テ不潔ナラサル様尿尿壺ノ周圍及汲取口ヲ掃除スヘシ(三十八年三月廳令九號ヲ以テ追加)

第十六條 尿尿運搬人ハ不潔ノ汲取器具ヲ携帯シ又ハ覆蓋不充分若ハ外部不潔ノ容器ヲ以テ尿尿ヲ運搬スルコトヲ得ス(三十八年三月廳令九號ヲ以テ追加)

第十七條 東京市内ニ於テ尿尿ノ汲取又ハ運搬ニ從事スル者ニシテ組合ヲ設置セムトスルトキハ組合規約ヲ設ケ代表者ヲ定メ所轄警察官署ヲ經テ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ(四十年七月廳令三五號同十、一月廳令五〇號ヲ以テ改正)

第十八條 警視廳ニ於テ組合規約又ハ代表者ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消シ若ハ改正又ハ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 尿尿ノ汲取ヲ延滞シタル場合ニ於テ其ノ汲取ヲ請求シタル者アルトキハ契約汲取人ハ直ニ之ニ應スヘシ(上)

第二十條 契約沒取人ハ故ナクシテ尿尿ノ汲取ヲ拒絕シ又ハ延滞スルコトヲ得ス(上)

第二十一條 何人ト雖契約汲取人ヲ教唆シテ尿尿ノ汲取ヲ拒絕又ハ延滞セシメ又ハ其ノ制限ニ從ヒ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ 但シ特ニ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル(上)

第二十二條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(四十年七月廳令三五號ヲ以テ改正、十一月廳令五〇號ヲ以テ二十四號ヲ削除シ本條以下順繰上)

第二十三條 牛馬ノ氷尿、蓐草ノ運搬容器ハ第六條ノ制限ニ從フヘシ 但シ蓐草ニシテ散逸又ハ臭氣發散ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス(上)

第二十四條 牛馬ノ氷尿、蓐草ノ取扱場ヲ設ケムトスルトキハ第七條第一號、第二號ノ制限ニ從ヒ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ 但シ特ニ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル(上)

第二十五條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(四十年七月廳令三五號ヲ以テ改正、十一月廳令五〇號ヲ以テ二十四號ヲ削除シ本條以下順繰上)

第二十六條 本則ニ抵觸スル從來ノ塵芥容器塵芥運搬容器及汚水溜ハ明治三十三年十月三十一日マテニ溝渠及廁圍ハ明治三十四年四月三十日迄ニ本則ニ依リ改造スヘシ

第二十七條 土地ニ定著シタル塵芥溜ニシテ明治二十七年六月警視廳令第三十六號塵芥取締規則第五條ノ構造制限ニ適合スルモノハ明治三十三年十二月三十一日マテ使用スルコトヲ得

第二十八條 本則ハ明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法施行ノ地ニ施行ス

第二十九條 同法ヲ準用シタル地域ニ於テハ其ノ準用シタル事項ニ關シテノミ本則ヲ施行ス

第三十條 從來ノ組合ニ關スル認可ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ(四十年十一月廳令五〇號ヲ追加)

第三十一條 削除(四十年十一月廳令五〇號)

●醫師法

明治三十九年五月
法律第四十七號

第一條

醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 帝國大學醫科大學醫學科又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 醫師試験ニ合格シタル者

三 外國醫學科ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學科ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條

左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者 但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 公權停止中ノ者

三 未成年者、禁治產者、准禁治產者、聾者、啞者及盲者

第三條

禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條

内務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登録ス

登録スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條

醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス

第六條

醫師ハ帳簿ヲ備ヘ患者ノ氏名、年齢、住所、職業、病名及療法ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條

醫師ハ其ノ技能ヲ誇稱シテ虛偽ノ廣告ヲ爲シ又ハ秘密療法ヲ有スル旨ヲ廣告スルコトヲ得ス

第八條

醫師ハ醫師會ヲ設立スルコトヲ得

醫師會ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第九條

醫師會ハ醫事衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得

第十條

醫師第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

醫師禁錮ニ處セラレタルトキハ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ

本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ 但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條

免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、

第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

條十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

條十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、府縣立醫學校ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セサルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ

本法施行前醫術假開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得 但シ免許地域外ニ診察所、治療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス

條十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セス醫術開業試驗規則ニ依リ醫術開業試驗ヲ舉行ス

前項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト看做ス

◎醫師法施行規則

明治三十九年九月
內務省令第二七號

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ

內務大臣ニ提出スヘシ

內務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ醫籍ニ登録シ醫師免許證ヲ下付ス

第二條 醫籍ニ登録スヘキ事項ナノ如シ

一 母登録番號及登録年月日

二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四 免許ノ取消、醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由、及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二號ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅又ハ手数料ニ相當スル收入

印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登録税又ハ手数料ハ之ヲ還付セス

第六條 醫師醫籍登録ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第八條 醫師自己又ハ他人ノ診療所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ診療治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ 但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診療治療ニ従事スル場合ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス
診療所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診療又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 醫師其ノ診療治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診療所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルキハ内務大臣ニ具申スヘシ
第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間滿了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一 醫籍ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ

一 免許證再下付ノトキ

一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十五條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第九條、第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●齒科醫師法

明治三十九年五月
法律第四八號

- 第一條 齒科醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 文部大臣ノ指定シタル齒科醫學校ヲ卒業シタル者
 - 二 齒科醫師試驗ニ合格シタル者
 - 三 外國齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者
- 第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者 但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 二 公權停止中ノ者
 - 三 未成年者、禁治產者、準禁治產者、聾者、啞者及盲者
- 第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ
- 第四條 内務省ニ齒科醫籍ヲ備ヘ齒科醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 第五條 齒科醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ又ハ治療ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 齒科醫師ハ帳簿ヲ備ヘ患者ノ氏名、年齢、住所、職業、病名及療法ヲ記載スヘシ

- 前項ノ帳簿ハ十箇年間之ヲ保存スヘシ
 - 第七條 齒科醫師ハ其ノ技能ヲ誇稱シテ虛偽ノ廣告ヲ爲シ又ハ秘密療法ヲ有スル旨ヲ廣告スルコトヲ得ス
 - 第八條 齒科醫師ハ齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得
 - 齒科醫師會ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム
 - 第九條 齒科醫師會ハ齒科醫事衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得
 - 第十條 齒科醫師第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ
 - 齒科醫師禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ許免ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ齒科醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ
 - 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ
 - 本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ 但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
 - 第十一條 免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者、停止中齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條若ハ第七條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附 則
- 第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 - 第十三條 本法施行前ノ齒科醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

齒科醫師法施行規則

明治三十九年九月
內務省令第二八號

第一條 齒科醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ齒科醫師法第一條規定ノ資格並住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ

內務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ齒科醫師ニ登錄シ齒科醫師免許證ヲ下付ス

第二條 齒科醫師ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

- 一 登錄番號及登錄年月日
- 二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨
- 三 齒科醫師法第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月日
- 四 免許ノ取消、齒科醫業ノ停止、其ノ事由、期間及年月日
- 五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日
- 六 抹消ノ事由及年月日

第三條 齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ齒科醫師ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所地

ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ齒科醫師ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 齒科醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内ニ住所地

ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第五條 第一條、第三條又第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手数料ニ相當スル收入

印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

第六條 齒科醫師齒科醫師登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ納付シタル登錄稅又ハ手数料ハ之ヲ還付セス

第七條 齒科醫師齒科醫師登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第八條 齒科醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 齒科醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第十條 齒科醫師其ノ管轄地方應ラ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第十一條 齒科醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ齒科醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ

診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ 但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方應ラ異

ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 齒科醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十條 地方長官ハ齒科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ

第十一條 齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第十二條 齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏背シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

- 一 齒科醫籍ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ
- 一 免許證再下付ノトキ

第十四條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條又第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第九條、第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ明治三十九年法律第四十八號齒科醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醫師藥劑師業務届出規則

明治三十四年七月
東京府令第三五號

第一條 明治三十四年八月一日以後外國又ハ他ノ廳府縣ヨリ東京府下ニ轉任シタル醫師又ハ藥劑師ハ其ノ開業スルト否トニ拘ハラズ甲號書式ニ據リ免狀寫ヲ添ヘ轉任當時現在ノ事實ヲ轉任ノ日ヨリ十日以内ニ住居地ノ區長又ハ町村長(伊豆七島及小笠原島ニ在テハ其ノ職ヲ行フ者以下)ニ届出ツヘシ

第二條 東京府下ニ住居スル醫師又ハ藥劑師ハ左記事項ノ異動ヲ生シタルトキハ乙號書式ニ據リ異動届ヲ作成シ異動ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ其ノ住居地ノ區長又ハ町村長ニ届出ツヘシ

- 一 氏名、年齢、住所、本籍、族稱
- 二 業務ノ種別
- 三 免狀ヲ得タル事由
- 四 免狀ノ番號及免狀下附ノ年月日
- 五 業務(開業、休業、復業、廢業、奉職就罷ノ願)

醫師藥劑師業務届出規則

- 六 開業ノ場所（出張所ヲ包含ス）
 - 七 奉職ノ官公署名
 - 八 海外移住
 - 九 海外旅行
 - 十 歸朝
 - 十一 失踪決定及其ノ取消
 - 十二 死亡
 - 十三 其ノ他業務上ニ關スル異動
- 東京府管内ノ轉居ニ就テハ新舊各住居地ノ區長又ハ町村長ニ届出ツヘシ
 本條第一項ノ場合ニ於テ死亡其ノ他本人ヨリ届出ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ戶主
 相續人財産管理人若ハ其ノ家主又ハ家屋ノ管理人ヨリ届出ツヘシ
- 第三條 島嶼ニ於テ本令施行前第一條及ヒ第二條ノ届出ノ事由ヲ生シタル者ハ本令施
 行後十日以内ニ届出ツヘシ
- 第四條 第一條第二條及第三條ノ届出ヲ爲ササル者又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ科
 料ニ處ス
- 附 則
- 第五條 本令ハ島嶼ヲ除クノ外明治三十四年八月一日ヨリ施行ス
- 第六條 明治二十五年五月東京府令第二十三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 甲號書式

醫師（又ハ藥劑師）現在狀況届

一 氏名	二 性別	三 住所	四 籍	五 年齢	六 族	七 業務ノ種別	八 免狀ヲ得タル事由	九 免狀ノ番號及免狀下附ノ年月日	十 業務
外國人ナレハ片假名ニテ記スヘシ	男又ハ女ト記スヘシ	何郡市區町村大字番地（寄留又ハ同居者ナレハ其戶主ノ氏名トモ）ヲ記スヘシ	道廳府縣郡市區町村大字番地（同居者ナレハ其ノ戶主ノ氏名トモ）ヲ記スヘシ 但シ本籍地住所地ニ同シケレハ「住所」ト記スヘシ	生年月日ヲ記スヘシ	何廳府縣華士族又ハ平民ト記スヘシ 但シ外國人ナレハ「ナシ」ト記スヘシ	醫師、齒科醫師、口中科、整骨科、藥劑師等免狀面記載ノ業務名ヲ記スヘシ	試驗及第、舊試驗及第、府縣立醫學學校卒業、大學卒業、高等學校卒業、官立醫學專門學校卒業、外國醫（藥）學校卒業、奉職履歷、從來開業、從來開業醫子弟、限地許可等ヲ記スヘシ	免狀面ニ記載シアル番號及年月日ヲ記スヘシ	開業シアリ又ハ開業セス又ハ奉職中又ハ海外旅行中其ノ他業務ニ關スル事項ヲ記スヘシ 但シ二者以上ノ事實併存スルトキハ之ヲ併記スヘシ

藥局ヲ開設シアル藥劑師ハ「開業シアリ」、開設ナキモノハ

十一 開業ノ場所

「開業セス」ト記スヘシ
何郡市區町村大字番地(同居ナレハ其ノ戸主ノ氏名トモ)記
スヘシ 但シ開業地住所地ニ同シケレハ住所地ニ同シト
記シ開業セサルモノハ「ナシ」ト記スヘシ又出張所ヲ設クル
モノハ其ノ場所ヲ併記スヘシ
官公署ノ名稱ヲ記スヘシ 但シ奉職セサルモノハ「ナシ」ト
記スヘシ

十二 奉職ノ官公署名

右及御届候也

年月日

區長又ハ町村長宛

氏

名印

記載方

一 業務ノ種別 口中科及整骨科トハ従前内務省ニ於テ免狀ヲ下付シタルモノヲ云
フ故ニ地方廳限リノ免許ニ係ル入齒齒抜口中療治若ハ按骨免許者ト同一視スヘ
カラス

二 免狀ヲ得タル事由 本項記載ノ種別ハ左ノ如シ

「試驗及第」 明治十六年太政官布達第三十四號醫術開業試驗規則(明治十七年一
月一日ヨリ實
施)ニ依リテ舉行セル醫術開業試驗ニ及第シタル醫師齒科醫師及明治二十
二年内務省令第三號藥劑師試驗規則(明治二十三年三
月一日ヨリ實
施)ニ依リテ舉行セル藥劑師
試驗ニ及第シタル藥劑師ヲ云フ
「舊試驗及第」 醫術開業試驗規則實施以前各地方廳ニ於テ舉行セル醫術開業

試驗ニ及第シタル醫師 内外科、内科、外科、
眼科、産科ヲ含ム 齒科醫師、整骨科及藥劑師試驗規則
實施以前各地方廳ニ於テ舉行セル藥舖開業試驗ニ及第シタル藥劑師ヲ云フ

「大學卒業」 東京大學醫學部醫學科、製藥科、藥學科又ハ帝國大學、東京帝
國大學若ハ京都帝國大學醫科大學醫學科、藥學科ヲ卒業シタル醫師及藥劑
師ヲ云フ 但シ別課卒業業者ヲモ包含ス

「高等學校卒業」 高等中學校又ハ高等學校醫學部醫學科、藥學科ヲ卒業シタ
ル醫師及藥劑師ヲ云フ

「官立醫學專門學校卒業」 官立醫學專門學校ヲ卒業シタル醫師及藥劑師ヲ云
フ

「府縣立醫學學校卒業」 府縣立ニ係ル甲種醫學學校又ハ特許醫學學校ヲ卒業シタル
醫師ヲ云フ

「外國醫(藥)學校卒業」 明治十六年太政官布告第三十五號醫師免許規則(明治
十七年一月一日
ヨリ實施) 第四條ニ該當スル醫師、齒科醫師及明治二十二年法律第十號藥
品營業並藥品取扱規則(明治二十三年三
月一日ヨリ實
施) 第四十一條第二項ニ該當スル藥劑師ヲ
汎稱ス

「奉職履歷」 明治十年内務省達乙第七十六號及明治十六年内務省達乙第四十
七條ニ該當スル醫師ヲ云フ

「從來開業」 明治十七年内務省達乙第四號ニ該當スル醫師 内外科、内科、外科、
眼科、産科ヲ含ム 及
口中科整骨科ヲ云フ

「從來開業醫子弟」 明治十五年内務省達乙第十四號ニ該當スル醫師 内外科、内
科、外科、眼

「科、産科、
ヲ含ム限地許可」醫師免許規則第五條ニヨリ授與セラレタル假開業醫師ヲ云フ
乙號書式

醫師又ハ(藥劑師)異動届

住所
氏名

一異動ノ事項 何何
一異動ノ生シタル日 明治何年何月何日
右及御届候也
年月日

右
氏名印

區町村長宛

記載方

一住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノハ前記ノ住所氏名ハ異動前ノモノヲ記シ捺印場所
ノ氏名ハ異動後ノモノヲ記スヘシ

●傳染病豫防法

明治三十年三月
法律第三六號

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶
私、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布
ヲ含ム)及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ
主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ
此法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方
法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委
員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷
若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員
又ハ豫防委員ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ヲ代ルヘキ者、社寺、
公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場
所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ
醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ(三十八年三月法律
五六號ヲ以テ改正)

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 第七條** 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ(三十八年三月法律五六號ヲ以テ二項削除)
- 第八條** 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得(三十八年三月法律五六號ヲ以テ改正)
- 第九條** 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ヘ移スコトヲ得ス
- 第十條** 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス
- 第十一條** 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス
- 第十二條** 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ 但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條** 傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルトヲ得ス 但公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四條** 死體ヲ既ニ埋葬シ若クハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

- 第十四條** 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長、管理人又ハ代理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得 但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ(三十八年三月法律五六號ヲ以テ改正)
- 第十五條** 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ 但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス
- 第十六條** 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村內ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入及器具藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ
- 第十七條** 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ(三十八年三月法律五六號ヲ以テ追加)
- 第十八條** 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ
- 第十九條** 傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム
- 第二十條** 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其停止期間家用用水ノ供給ヲ爲スヘシ(三十八年三月法律五六號ヲ以テ追加)
- 第二十一條** 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第二十二條** 船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ

病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗組マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正）

但シ之カ爲テ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス

在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ追加）

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正）

二 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正）

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト

四 古著、襪襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食食物ノ販買、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

六 汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正）

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命ジ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、廁園ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

九 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ追加）

第十九條ノ二 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ（三十八年三月法律五十六號ヲ以テ追加）

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一 豫防委員ニ關スル諸費

傳染病豫防法

- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員竝豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手当、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料弔祭料
- 六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲メ又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)
- 七 市町内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者竝死者ニ關スル諸費
- 八 市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ追加)
- 九 第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ追加)
- 十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ追加)
- 其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
 - 一 第十八條ニ關スル諸費(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)
 - 二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)
 - 三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)
- 其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
- 第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救助ニ

- 關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得
- 市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得
- 第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ
- 第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモノトス
- 第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該官吏ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得
- 私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)
- 第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)
- 第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ

訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以內ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十八年三月法律五十六號ヲ以テ改正)

附 則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス 但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則 (明治三十八年三月法律第五十六號)
本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防法施行規則 明治三十年五月內 務省令第一一號

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報スヘシ 但シ前段ノ場合ニ於テハ隣接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下ニ依テ)又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ 但シ町村長又ハ戶長ニ於テ届出ヲ又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告スヘシ(四十一年五月一號改正)

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染

傳染病豫防法施行規則

傳染病豫防法施行規則

一五四

病患者死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通知スヘシ 但シ警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府及府廳)ニ報告スヘシ(三十八年六月省令一四號) 及府廳(東京府)ニ報告スヘシ(四十二年五月同八號改正)

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第四條

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其ノ他病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムベシト病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ 但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市長村長區長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ(三十八年六月省令一四號改正)

第五條

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシムヘシ 但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ(三十八年六月省令一四號改正)

第六條

警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列刺、赤痢、發疹瘰扶私(ベスト)ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得(三十八年六月省令一四號改正)
一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若ハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時

ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其他適當ノ場所ニ隔離スルコト
滿五日間
虎列刺、赤痢
發疹瘰扶私
滿七日間
「ベスト」
滿十日間

第七條

交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ 但特ニ府縣知事(東京府)ノ命アル場合ニ限ル市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受クテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第八條

左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戶長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ 但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ吏員ニ通報スヘシ
一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ
二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ
三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間ニ埋葬セントスルトキ

第九條

傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ 但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員

傳染病豫防法施行規則

一五五

員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ從事スヘシ
第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出
後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證票ハ左ノ如シ

凡三寸

木札 表 凡
又ハ 傳染病豫防吏員之證
厚紙 面 寸

裏 面
官 廳 公 署 印

第十條 府縣知事(東京府ハ)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一ノ健康診
斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得(三十八年六月 省令一四號改正)

第十一條 府縣知事(東京府ハ)傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ
施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徵收スルコト
ヲ得其金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市町村長區長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法
消毒方法ヲ施行スヘシ 但警察官吏衛生官吏郡吏島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村
長區長又豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ從事スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ供給シ又費用ヲ支出スヘシ

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書ノ 場合ヲ除ク)及第十九條ノ地方長官ノ職務其
ノ傳染病豫防法又ハ此規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總

監之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職
務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法又ハ此規則ノ規程ニシテ其準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣
ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十七條 傳染病豫防法又ハ此規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知事之
ヲ定ム

島地ニ關シ此規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程
ヲ設クルコトヲ得

肺結核豫防ニ關スル件

明治三十七年二月
內務省令第一號

第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方長官ノ
指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若ハ其箇數充分ナラスト認ムルトキハ期間
ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾液乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾
肺結核豫防ニ關スル件

痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス

第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾盞以外ニ唾痰ヲ略世スルコトヲ得ス

第三條 地方長官ノ指定シタル鑛泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲

クル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト
- 二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
- 三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラサレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト
- 四 前號ニ掲クル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシメサルコト

第四條 病院ハ左ニ掲クル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト
- 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト

第五條 結核病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第六條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第七條 消毒方法ハ明治三十年五月內務省令第十三號ニ依ルヘシ 但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分ヲ使用スヘシ

第八條 第一條第一項ニ違背シテ唾盞ヲ配置セサル者、警察官署ノ指定シタル期間ニ

其命令ヲ履行セサル者、同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合

ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

第十三條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第十四條 本令ノ規定ハ應府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ妨ケ

第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第十六條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

肺結核豫防規則

明治三十七年三月
總令第七號

第一條 明治三十七年二月內務省令第一號肺結核豫防ニ關スル件第一條ニ列記セル場所ノ外教會堂、取引所、銀行、商品陳列所、勸工場、觀物場、遊技場、賽會所、共進會、展覽會、圖書館、新聞雜誌總覽所、湯屋、理髮店、下宿屋、貸座敷、引手茶屋、料理屋、飲食店、待合茶屋、遊船宿、貸席、芝居茶屋、角力茶屋、工場、健造物内ニ於テ開設スル市場、學校及工場ノ寄宿舍病舍、醫師ノ病室及患者控所、乗客ノ用ニ供スル汽船ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ 但シ當該官吏ノ許可シタル箇所ニ於テハ灰吹ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二條 明治三十七年二月內務省令第一號肺結核豫防ニ關スル件第一條及本則第一條ニ依リ配置スヘキ唾壺ノ中便所廊下出入口其ノ他當該官吏ノ指示スル箇所ニハ内部陶製、磁製又ハ硝子製ノモノヲ用ウヘシ 但シ場所ニ依リ金屬製ノモノヲ用ウルコトヲ得

第三條 唾壺及灰吹ハ不潔ナラサル様時時之ヲ掃除スヘシ

第四條 旅店又ハ貸座敷ノ營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二 前號ノ白布及貸浴衣ハ不潔ナラサル様時時之ヲ洗濯スルコト

第五條 病室ヲ有スル醫師又ハ病舍ヲ有スル學校及工場ノ首長ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト

二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニ非サレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト

三 結核病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト

第六條 本則第二條乃至第五條ニ違背シタルモノハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 首長又ハ營業者ハ家族、使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖其ノ責ニ任ス

第八條 法人ノ代表者其ノ他ノ使用人又ハ從業者ノ所爲ニ因リ本則ニ違背シタルモノハ第六條ノ罰金ヲ其ノ法人ニ科ス

第九條 本則ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

肺結核豫防規則ニ關スル件

明治三十七年三月
告諭第一號

今回內務省令第一號ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル件ヲ制定セラレ尙警視廳令第七號ヲ以テ肺結核豫防規則ヲ發布セリ抑肺結核ハ從來肺病肺勞等ト稱セシモノニシテ近來醫學ノ進歩ニ依リ一種ノ傳染病ナルコトヲ明カニセリ而シテ本病ハ其ノ經過慢性ニシテ虎列刺ベストノ如ク病性急激ナラサルヲ以テ世人ノ注意ヲ惹クコト甚タ少ナシト雖其ノ病毒ハ全國到處ニ蔓延シ之カ爲ニ斃ルモノ極メテ多シ今東京市ニ於ケル一例ヲ示セハ客年上半年ノ死亡總數一萬三千二百八十三人中肺結核ハ二千四百十二人ニシテ死亡總數ノ五分ノ一強ニ當レリ加フルニ少壯ノ年齡ニ於テ其ノ死亡多キヲ以テ一國ノ生

産力ヲ滅殺スルコト多大ナリ斯ノ如ク肺結核ハ國民ノ健康上及國家ノ經濟上實ニ容易ナラサル疾患ナリ然ルニ省令及廳令ハ肺結核豫防ニ關シ單ニ急速緊要ナル部分ヲ定メタルニ過キサルカ故ニ一般個人ニ於テ之カ豫防ノ方法ヲ盡スニ非サレハ傳播上非常ノ潛勢力ヲ有スル肺結核ヲ防遏スル能ハス因テ省令廳令ノ外各個人ハ左記ノ各號ニ隨ヒ本病ノ危険ヲ防キ各自ノ健康ヲ保全スルヲトニ注意スヘシ

第一 肺結核病毒ノ蔓延ハ主トシテ患者ノ咯痰ニ因ルモノナレハ肺結核又ハ其ノ疑アル患者ノ家ニ於テハ少量ノ藥液又ハ水ヲ入レタル陶製、磁製若ハ硝子製ノ有蓋唾壺ヲ患者用トシテ備ヘ置キ唾壺内ノ唾痰ハ投棄ニ先タチ消毒ヲ行フコト

唾痰ノ消毒ハ其ノ同量以上ノ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分、水九十四分ヲ加ヘ能ク攪拌シ一時間以上放置スルコト

第二 肺結核患者ノ末期ニ在テハ糞便中ニ往往結核病毒ヲ含有スルカ故ニ咯痰ト同注意スルコト

第三 肺結核患者ノ衣服、寢具其ノ他患者ノ咯痰ニ汚染シタル物品ハ時時消毒ヲ行フコト

第四 肺結核患者ノ居住シタル室其ノ使用シタル衣服、寢具、飲食器具其ノ他ノ物品ハ病毒傳播ノ危険最モ大ナルヲ以テ相當ノ消毒ヲ行ヒタル後ニ非サレハ他ニ使用セサルコト

第五 肺結核又ハ其ノ疑アル患者ノ唾痰ヲ拭ヒ去リタル紙、布、綿屑等ハ之ヲ燒却スルカ若ハ消毒スルコト

第六 肺結核又ハ其ノ疑アル患者ノ唾壺若ハ唾痰ヲ拭ヒ去リタル紙、布等其ノ他病毒

汚染ノ疑アル衣服、寢具、飯食器具ヲ取扱ヒタルトキハ石鹼ヲ以テ其ノ手ヲ洗滌シ且石炭酸水ヲ以テ消毒スルコト

第七 肺結核又ハ其ノ疑アル患者ノ家ニ於テハ尙左ノ事項ヲ注意スルコト

一 患者ト家人トハ成ルヘク寢室ヲ區別スルコト

二 小兒ハ成ルヘク患者ト同衾セシメサルコト

三 患者ト家人トハ飲食器具ヲ共用セサルコト

四 家人ノ寢具ノ上敷等ハ時時熱湯ヲ以テ洗滌スルコト

五 家人ノ寢具ハ時時日光ニ曝ラスコト

六 室内ニ光線ヲ射入セシムルコト

七 室内ノ疊ハ時時濕布ヲ以テ拭フコト

八 患者自ラ家人ニ傳染セシメサル様略痰ニ注意スルコト

第九 塵埃中ニハ屢結核菌ヲ含有シ爲ニ核病感染ノ原因トナリ又結核菌ヲ含有セサル塵埃ト雖呼吸器ヲ害シ肺結核ノ誘因トナルモノナレハ學校、工場其ノ他多數集合スル建物ニ於テハ濕雜巾ヲ用ウル等成ルヘク塵埃ノ飛散セサル方法ヲ用キテ掃除ヲ行フコト

第十 宿屋ノ寢具ハ何時肺結核患者ノ使用セシモノタルヲ知ルヘカラス營業主ニ於テ相當ノ豫防措置ヲ爲スハ勿論ナレトモ宿泊人タルモノモ尙能ク注意シ寢具ノ襟及枕

等ヲシテ直接鼻口ニ觸レシメサルコト

第十一 宿屋、湯屋、理髮店等ニ於テ共用盥中ノ湯水ヲ以テ含嗽ヲ爲シ殊ニ宿屋ノ不潔ナル嗽茶碗ヲ使用シ又ハ湯屋ノ水榭ヲ以テ含嗽器ニ代用スル等ノ行爲ハ勉メテ之ヲ避クヘキコト

第十二 古著、古蒲團等ハ病毒傳播ノ媒介ヲ爲ス虞アルヲ以テ其ノ使用前ニ於テ相當ノ注意ヲ爲スヘキコト

第十三 鐵道停車場、汽車、電車、乘合馬車、乘合船舶、神社、佛閣其ノ他衆人群集ノ場所ニ於テハ濫ニ唾痰セサル様注意スヘキコト

第十四 牛乳中ニハ結核病毒混在ノ虞アルヲ以テ煮沸シテ之ヲ飲用スヘキコト

第十五 宴會等ノ際酒杯ヲ授受スルハ古來ノ通習ナレトモ肺結核豫防上ヨリ視レハ甚々危険ノ行爲ニ付是等ノ慣例ハ成ルヘク之ヲ避クヘキコト

第十六 肺結核ハ治癒ニ至難ナルモ初期ニ於テ加療ノ方法宜キヲ得ハ其ノ效果ヲ奏スヘキヲ以テ咳嗽咯痰持續スル者、胸部ニ疼痛ヲ感スル者、屢々發熱スル者故ナク食欲不振ノ者、倦怠疲勞スル者、羸瘦スル者、盜汗(寢汗)アル者等ハ速ニ醫師ノ診察ヲ受ケ相當ノ手當ヲ爲シ不治ニ陥ラサル様注意スヘキコト

第十七 肺結核患者アラサル家ト雖室內ニ空氣及光線ヲ透入セシメ又ハ衣服、寢具等ヲ時時日光ニ曝ラシ各自ノ身體ヲ健全ニシ病毒ニ侵サレサル様注意スヘキコト

第十八 公衆ノ交通スル場所ニ於ケル唾壺ハ唾壺ノ壺外ニ逸セサル様扁平ニシテ内部滑澤且稍大ナル構造ヲ良トシ壺内ニ入ルヘキ水量ハ輕度ノ振動ヲ受クルモ流出セサルヲ適度トスルコト

●產婆規則

明治三十二年七月 勅令第三四號

第一條 產婆タラムトスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ產婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス(四十二年勅令二一八號改正)

一 產婆試驗ニ合格シタル者

二 內務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者

第二條 產婆試驗ハ地方長官之ヲ舉行ス

第三條 一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非ラサレハ產婆試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

產婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ產婆試驗合格證書又ハ卒業證書ヲ添へ地方長官ニ願出ツヘシ(同上)

產婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

產婆名簿ノ登錄事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第五條 產婆其住所ヲ移シタル爲メ管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳

ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ノ登録ヲ願出ツヘシ
前項ノ登録換ヲ爲ササル者ハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 産婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツ
ヘシ

産婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官
ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第七條 産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請
ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス 但シ臨時救急ノ手當ハ此限ニ在ラス

第八條 産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用キ藥品
ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス 但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ
類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 産婆ハ産婆名簿ニ登録ヲ受ケサル者ニ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專
任スルコトヲ得ス

第九條ノ二 産婆ハ自ラ檢案セシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス
追加

第十條 産婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ
罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ産婆ノ業務ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ
得産婆名簿登録前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條 試験ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試験ヲ無効トスルコトヲ
得若シ己ニ登録ヲ受ケタルトキハ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ産婆ノ業務ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止
又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條 産婆試験ヲ受ケントスル者又ハ産婆名簿ニ登録ヲ願出ツル者ニシテ試験又
ハ登録ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ
タル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ許可セサル
コトヲ得

第十四條 産婆ニシテ三箇年間其ノ業務ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癡疾ト爲リ其
ノ業務ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十五條 産婆名簿ノ登録、登録ノ取消、主要ナル登録事項ノ訂正並産婆業ノ禁止又
ハ停止及其解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 産婆名簿ニ登録ヲ受ケスシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者

二 産婆名簿ノ登録ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

三 産婆ノ業務ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆業務ヲ爲シタル者

四 第三條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者

五 第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者(同上)

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十八條 本令施行前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其業ヲ
營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登録ヲ受クルコトヲ

得

第十九條 地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限り當分ノ内出願者ノ履歴ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得
 前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス 但産婆名簿ニ登録スル限ニ在ラス

第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●看護婦規則

明治三十三年七月
 東京府令第七一號

第一章 通則

- 第一條 看護婦ノ業ヲ營マントスル者ハ第二條ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ當應ニ願出免狀ヲ受クヘシ
- 第二條 免狀ハ年齢滿二十年以上ノ女子ニシテ當應ノ看護婦試験ニ及第シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
- 第三條 免狀ハ之ヲ他人ニ貸渡スコトヲ得ス
- 第四條 免狀ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ再下付ヲ願出ツヘシ
- 第五條 族籍氏名等免狀記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ書換ヲ願出ヘシ

第六條 看護婦廢業又ハ住居ヲ轉シタルトキハ二十日以内ニ免狀ヲ添ヘ其ノ旨届出ツヘシ 但シ管内ノ轉居ハ免狀ノ添附ヲ要セス

失踪又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ免狀ヲ添ヘ届出ツヘシ 但シ免狀ヲ添ヘ離キ事由アルトキハ其ノ旨ヲ届書ニ記載スヘシ

第七條 看護婦ハ主治醫ノ指示ヲ受クルニ非サレハ治療ニ關スル手術又ハ投藥ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 看護婦ハ無免許ノ者ヲシテ代テ看護ヲ爲サシムルコトヲ得ス 但シ現ニ看護ノ方法ヲ指示シ一部ノ補助ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 看護婦ニシテ瘋癲、白痴、不具、癡疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ免狀ヲ返納セシム

第十條 本則ニ依リ禁止ノ處分ヲ受ケ二個年ヲ經過シタル者ハ其ノ行狀ニヨリ之ヲ解除スルコトアルヘシ

第十一條 看護婦組合ヲ設クルトキハ其ノ規約書寫ヲ添ヘ當應ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 看護婦試験ハ毎年二回(五月、十一月)當應ニ於テ之ヲ舉行ス
 試験期日ハ毎回二個月以前之ヲ告示ス

第十三條 試験科目ハ左ノ如シ

第一 看護法

看護婦規則

第二 解剖生理ノ大要
第三 傳染病豫防消毒方法

實地

第一 實地ニ關スル事項

第十四條 實地試験ハ學說試験ニ及第シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第十五條 看護婦試験ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ニ據リ修業履歷書ヲ添ヘ願出ツ

ヘシ
試験願書ノ差出期ハ毎年四月及十月トス

試験願書ヲ許可スルトキハ指令ヲ須ヒス其ノ願書ヲ受理シ許可セサルトキハ之ヲ却下

ス
第十六條 不具、廢疾者並禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ看護婦試験ヲ許可セサル

コトアルヘシ
第十七條 看護婦試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ交付ス

第十八條 試験ニ關スル規定ニ違反シタル者ハ其ノ試験ヲ無効トス

第三章 罰則

第十九條 看護婦ニシテ禁錮以上ノ刑又ハ本則ニ依リ科料ニ處セラレタル者其ノ他業

務上不正ノ行爲アリタル者ハ其業ヲ禁止シ若ハ二ケ年以内停止スルコトアルヘシ

第二十條 前條ニ依リ看護婦ノ業ヲ禁止若ハ停止セラレタル者ハ五日以内ニ所轄郡區

役所ヲ經由シテ免狀ヲ返納スヘシ 但シ停止ニ係ルモノハ其ノ旨ヲ免狀ニ記載シ之

ヲ下付ス

第二十一條 第一條第三條第七條第八條ニ違反シタル者又ハ第二十條ニ違反シ免狀ヲ

返納セサルモノハ二十五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 第五條第六條第十一條ニ違反シタル者ハ壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第四章 附則

第二十三條 本令施行以前二個年以上看護婦ノ業ヲ營ミ本令施行後六個月以内ニ出願

スル者ハ當應ニ於テ適當ト認ムルモノニ限り試験ヲ要セスシテ免狀ヲ下付ス

前項ノ願書ニハ看護婦業務上ニ關スル履歷書(卒業證書アルモノハ其ノ寫トモ)ニ其

ノ師若ハ醫師ノ證明ヲ得テ之ヲ添附スヘシ

第二十四條 本令ハ官公立病院内ニ於テ使用スル看護婦ニ適用セス

第二十五條 本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

附 錄

第一號書式

看護婦試験願

住 所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族 稱

氏

生 年 月

名

明治何年何月看護婦試験相受度別紙修業履歷書相添此段奉願候也

追テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト無之候(又ハ何年何月何日何何ノ罪ニ依何

處裁判所ニ於テ何何ノ刑ニ處セラレ候)

看驗締規則
年 月 日

東京府知事宛

右

氏

名印

區長町村長(區町村長ヲ置カサル地ハ其ノ事務ヲ取扱フ者)ノ與印

一七二

交通之部

道路取締規則

明治三十二年六月
廳令第二五號

改正略符

(一)三十五年廳令一二號
(ろ)三十五年廳令四一號
(は)三十五年廳令四一號
(に)三十二年廳令一七號

第一章 通則
第二章 安寧則
第三章 通行則
第四章 風紀則
第五章 清潔則
第六章 罰則
第七章 附則

道路取締規則

第一章 通則

第一條 本則ニ於テ道路ト稱スルハ公設、私設ヲ問ハス公衆ノ通行スヘキ道路、橋梁及其ノ道路ニ附屬スル溝渠ヲ謂フ

第二條 本則ノ制限内ニ在ルモノ及本則ニ依リ許可又ハ認可ヲ得タルモノト雖所轄警察官署ニ於テ危険又ハ通行上支障アリト認ムルトキハ之カ除去、停止若ハ危険豫防ノ裝置ヲ命シ又ハ認許ヲ取消スコトアルヘシ

第二章 安寧

道路取締規則

第三條

道路ニ軒楹、標旗、標燈、看板、物干、日除等ヲ突出シ若ハ諸車、商品其ノ他ノ物件ヲ出シ置クヘカラス 但左ノ制限ニ從フモノハ此ノ限ニ在ラス

一 釣看板、標旗及標燈ハ地盤ヲ距ル高サ八尺以上、二尺以内

二 日除ハ綿布類ニシテ垂下スルモノニ限リ三尺以内

第四條

左ノ各號ニ係ルモノハ期限ヲ定メ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ 但第一號、第七號ノ事項ニ在リテハ繼續出願ノ場合ナルト否トヲ問ハス其ノ使用期限通シテ六十日以上ニ渉ルモノ及第八號、第九號ニ係ルモノハ其ノ土地ノ使用許可書ノ謄本ヲ添付スヘシ

一 工事ノ爲道路ニ竹木、土石類ヲ置キ又ハ板圍、繩張、足代、支柱等ヲ設ケムトスルトキ

二 道路ニ於テ建物ヲ移轉シ又ハ輾木(コ)ヲ用キ物件ヲ運搬セムトスルトキ

三 道路ニ於テ荷造又ハ木挽等ヲ爲サムトスルトキ

四 祭典、縁日、歳ノ市、草市、賣出シ等ニ際シ道路ニ幟杭、舞臺、小屋其ノ他飾物ヲ設ケムトスルトキ

五 道路ニ神輿、山車又ハ踊屋臺等ヲ出サムトスルトキ

六 道路ニ於テ工事ヲ爲サムトスルトキ

七 道路ニ廣告塔、廣告札、榜示杭、火ノ見梯子、柵欄、街燈ノ類ヲ建設セムトスルトキ

八 祭典、縁日ニ非サル場合ニ於テ道路ニ幕張店及葎簀張店ノ類ヲ設ケムトスルトキ 但市内ニ在リテハ慣行アル場所ニ限ル

九 道路ニ輕便軌道ヲ布設セムトスルトキ

十 廣告ノ爲屋臺ヲ用キ又ハ數人連行樂器ヲ鳴シ通行セムトスルトキ

第五條

道路ヲ掘鑿シタル場合ニ於テ其ノ使用ヲ了ヘタルトキハ速ニ原形ニ復スヘシ 但シ道路ヲ掘鑿シタル場合ニ於テ其ノ使用ヲ了タルトキハ速ニ原形ニ復スヘシ

道路ヲ掘鑿シタル場合ニ於テ其ノ使用ヲ了タルトキハ速ニ原形ニ復スヘシ

道路ニ沿ヒタル井溝其ノ他掘鑿シタル場所ニシテ危險ト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ危險豫防ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第六條

道路ニ竹木、土石其ノ他ノ物件ヲ置キタルトキハ危險豫防ノ裝置ヲ爲シ且夜間ハ標燈ヲ照スヘシ

第七條

道路ニ沿ヒタル場所ニ竹木其ノ他ノ物件ヲ立置クトキハ鐵鎖又ハ強靱ナル繩索其ノ他堅牢ナル方法ヲ以テ之ヲ圍繞シ薪炭其ノ他ノ物品ヲ堆積スルトキハ危險豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

第八條

道路又ハ道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ建設物及樹木、瓦石等崩壞、顛仆、墜落シ若ハ其ノ虞アルトキハ速ニ修繕、撤去若ハ扶植、伐採スヘシ

第九條

道路又ハ道路道ニ沿ヒタル建物ヲ撤去若クハ修繕スルトキハ瓦石等ノ墜落又ハ塵埃ノ飛散ヲ豫防スヘシ

第十條

漏出、墜落又ハ飛散ノ虞アル物品ヲ運搬スルトキハ適當ノ裝置ヲ爲シ竹木其ノ他ノ物件ニシテ尖リタルモノヲ運搬スルトキハ其ノ末端ヲ纏束又ハ包裹スヘシ

第十一條

運搬中ノ建物其ノ他巨大ノ物件ヲ道路ニ停メ置クヘカラス 但シ夜間ニ至リ已ムコトヲ得ス之ヲ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ危險豫防ノ裝置ヲ爲シ且標燈ヲ

點スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ所轄警察官署、巡查派出所又ハ巡查駐在所ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 牛馬竝運搬中諸車、竹木其ノ他ノ物件ヲ道路ニ停メ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十三條 諸車ヲ停メ置クトキハ通行ノ妨害ト爲ラサル様之ヲ片寄せ置クヘシ

第十四條 道路ニ布設シタル軌道ニ竹木、瓦礫等ヲ置キ行車ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十五條 道路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ吹矢、投石其ノ他危険ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第十六條 道路ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲スヘカラス

第十七條 道路ニ竹立シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 道路ニ於テ作業ヲ爲スヘカラス 但シ行路營業者ニシテ通行ノ妨害ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 道路ニ於テ演藝其ノ他人寄せヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十條 電線ノ架設シタル道路ニ於テ紙鳶ヲ揚クルヘカラス

第二十一條 道路ニ於テ制止ヲ背セスシテ遊戯ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十二條 四歳未満小兒ヲ道路ニ獨歩セシムヘカラス

第二十三條 牛馬其ノ他保管ヲ要スヘキ獸類ヲ道路ニ放逸セシムヘカラス

第二十四條 道路ニ於テ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシムヘカラス

第二十五條 道路ノ建設物又ハ樹木ニ牛馬ヲ繫クヘカラス

第二十六條 路商ハ出店ノ慣行アル地内ニ非サレハ出店スヘカラス 但シ特ニ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス(ハ)

前項ニ依リ出店シタルモノト雖モ市街ノ體裁ヲ損スルモノト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ之カ除去ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條 路商ハ各店ノ間適當ノ距離ヲ保ツヘシ

第二十八條 路商ハ閉店ノ際其ノ使用場所ヲ掃除スヘシ

第三章 通行

第二十九條 道路ニ於テ軍隊、學生、生徒ノ隊伍及葬儀等ニ行逢ヒタルトキハ避讓スヘシ

郵便用、消防用ノ車馬ニ行逢ヒタルトキ亦同シ

第三十條 道路ニ於テ盲者ニ行逢ヒタルトキハ避讓スヘシ

第三十一條 諸車、牛馬ハ車馬道ノ設ケタル場所ト否トヲ問ハス左側ヲ通行スヘシ

(S) 第三十二條 道路ニ於テ諸車、牛馬行逢ヒタルトキハ互ニ左方ニ避クヘシ 但シ軍隊ニ行合タルトキハ右方ニ避クヘシ

第三十三條 街角又ハ橋上ヲ行車スルトキハ除行シ右折ノ場合ハ大廻ヲ、左折ノ場合ハ小廻ヲ爲スヘシ

第三十四條 街角橋上若ハ通行頻繁ノ場所其ノ他警察官吏ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テ警察官吏ノ舉手アリタルトキハ一時諸車、牛馬ノ進行ヲ止ムヘシ

第三十五條 通行禁止ノ榜示アル場所ヲ通行スヘカラス 但シ其ノ地域内ニ居住スル者及其ノ居住者ト交通スル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ諸車、牛馬ヲ出入セムトスルトキハ所轄警察官署、巡查派出所又ハ巡查駐在所ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條 濫ニ車馬ヲ疾驅シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十七條 濫ニ車馬道ヲ通行スヘカラス

第三十八條 人道ニ諸車、牛馬ヲ入ルルヘカラス 但シ小兒車撒水車ヲ輓キ又ハ居住者ニ於テ其地内ニ空車、牛馬ヲ出入シ其ノ他地盤ニ特別ノ裝置ノ爲シ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 牛馬ノ牽綱ハ三尺以外ニ把ルヘカラス

第四十條 夜中燈火ナクシテ牛馬ヲ牽クヘカラス

第四十一條 十五年未滿ノ者ヲシテ牛馬ヲ牽カシムヘカラス

第四章 風紀

第四十二條 制札、橋梁其ノ他道路ノ建設物ヲ毀棄、汚損シ又ハ之ニ樂書、札等ヲ爲スヘカラス

第四十三條 道路ノ樹木ヲ損シ又ハ街燈若ハ標燈ヲ消スヘカラス

第四十四條 道路又ハ道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ喧噪シ又ハ偃臥スヘカラス

第四十五條 道路ニ於テ制止ヲ肯セス放歌シ又ハ高聲ヲ發スヘカラス

第四十六條 道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ公安又ハ風俗ヲ害スヘキ扮裝ヲ爲スヘカラス

第四十七條 道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ公安又ハ風俗ヲ紊リ若ハ風致ニ害アル廣告、看板其ノ他ノ標示物ヲ出スヘカラス

第四十八條 道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ袒裼裸體シ若ハ股脚ヲ露シ其ノ他醜體ヲ爲スヘカラス

第四十九條 道路又ハ道路ニ沿ヒタル場所ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲スヘカラス

第五十條 道路ニ沿ヒタル場所ノ便所ハ其ノ内部ヲ道路ヨリ見透シ得サル樣裝置ヲ爲スヘシ

第五章 清潔

第五十一條 道路ハ負擔者ニ於テ常ニ掃除ヲ爲スヘシ

第五十二條 炎天、風日ニハ負擔者ニ於テ時時道路ニ撒水スヘシ 但十二月一日ヨリ二月末日マテニ於テ午前八時前及午後三時後ハ撒水スヘカラス

第五十三條 道路ノ積雪ハ負擔者ニ於テ午前九時マテニ掃除シ河海、溝渠其ノ他通行ノ妨害トナラサル場所ニ投棄スヘシ 但午前九時ヨリ日没マテノ積雪ハ時時掃除スヘシ

第五十四條 道路ニ瓦礫、塵芥、禽獸ノ死屍其ノ他汚穢物ヲ投棄スヘカラス

第五十五條 溝渠ノ塵芥、淤泥等ヲ道路ニ撒布シ又ハ留メ置クヘカラス

第五十六條 溝渠其ノ他ノ汚水ヲ道路ニ撒布スヘカラス

第五十七條 道路ニ於テ敷物、疊其他物品ノ塵埃ヲ掃フヘカラス 但夜間通行稀ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十八條 道路又ハ道路ニ面シタル場所ニ於テ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第六章 罰則

第五十九條ノ一 本則第三條、第四條、第五條第一項、第六條乃至第十五條、第十七條乃

至第二十二條、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條、第二十九條乃至第四十七條第四十九條、第五十條、第五十三條ニ違背シタル者又ハ第二條、第五條第二項、第二十六條第二項ノ命令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(は)

第十六條、第二十三條、第二十四條、第二十八條、第四十八條、第五十一條、第五十二條、第五十四條乃至第五十八條ニ違背シタル科料ニ處ス

第五十九條ノ二 前條ニ規定シタル違背行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ同條各項ニ照シ之ヲ罰ス 但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得(は)

第五十九條ノ三 明治四十一年^九内務省令第十六號警察犯處罰令其ノ他ノ法令ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル(は)

第六十條 本則第三條、第九條、第十條、第十一條第二項、第十八條、第二十二條、第二十五條、第二十六條、第三十九條、第四十條、第四十一條、第五十條、第五十一條、第五十二條、第五十三條及第五十七條ノ規定ハ郡部ニ在リテハ品川町、内藤新宿町、板橋町、千住町、南千住町、八王子町ニシテ人家連擔ノ場所ヲ除キ其ノ他ノ場所ニハ此ヲ適用セス 但第二十二條ノ規定ハ電氣鐵道布設ノ道路ニ限リ之ヲ適用ス(ろ)

第六十一條 本則第五十二條及第五十三條ノ規定ハ特別ニ定メタル撒水除雪線路ニハ之ヲ適用セス

第六十二條 明治十五年^十警視廳布達甲第八號街路取締規則及同十八年^二同布達甲第三號馬車避讓ニ關スル規定ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第六十三條 本則施行以前ノ施設ニ係ル軒楹、標旗、標燈、看板、物干ニシテ本則第三條ノ制限ニ抵觸スル者ハ其改造又ハ大修繕ノ時ニ於テ各其ノ制限ニ從フヘシ

電氣鐵道取締規則

明治三十六年八月 廳令第三二號

(改正加) 三十八年五月 廳令一七號 (除略符) 三十九年六月 廳令一九號

第一章 總 則

第二章 營業者ニ對スル規定

第三章 車掌、運轉手等ニ對スル規定

第四章 乗客ニ對スル規定

第五章 電車ノ保護ニ關スル規定

第六章 罰 則

第七章 附 則

電氣鐵道取締規則

第一章 總 則

第一條 本則ハ軌道條例ニ依リ主務大臣ノ特許ヲ得テ一般運輸營業ニ供スル電氣鐵道ニ適用ス

第二條 本則ニ於ケル電車トハ客車及貨車ヲ併稱ス

第二章 營業者ニ對スル規定

電氣鐵道取締規則

第三條 電氣及之ニ附屬スル機械、器具ハ當該官廳ノ検査ニ合格シ検査證書ヲ受ケタルモノニ非サレハ使用スルコトヲ得ス(ろ)

第四條 電車及之ニ附屬スル機械、器具ハ常ニ清潔、堅牢ニ保持シ破損シタルトキハ速ニ修繕ヲ加フヘシ(ろ)

第五條 (削除)(ろ)

第六條 電車ニハ制動器、避難器、音響器及車掌運轉手間ニ通スヘキ信號器ヲ裝置スヘシ但シ附屬車ニハ制動器及信號器ノミヲ裝置スルコトスルコトヲ得

第七條 電車ニハ其内外略易キ場所ニ車輛ノ番號ヲ明記スヘシ

第八條 電車ニハ行先ヲ示ス爲其ノ前後ニ晝間ハ標札ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點スルノ裝置ヲ爲スヘシ

前項ノ標札及標燈ニハ其行先地名ヲ明記シ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ(り)

第九條 客車ニハ乗客ノ滿員ヲ示ス爲其ノ前後ニ滿員札ヲ掲クルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十條 客車ニハ車内略易キ場所ニ車輛検査證書、乘車賃錢表及第四章ノ規定ヲ掲クヘシ(り)

第十一條 客車ニハ其ノ前後及車内ニ相當ノ光力ヲ有スル電燈ヲ點シ且車内ニハ豫備トシテ尙蓄電池式ノ電燈又ハ其ノ他ノ燈火ヲ點スルノ裝置ヲ爲スヘシ(り)

第十二條 客車ニハ天井ノ外廣告ヲ掲クヘカラス

第十三條 電車ノ停留場及其ノ標示ヲ設置セムトスルトキハ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十四條 軌道及電線路ニ對シテハ常ニ係員ヲシテ注意セシメ運轉上危險ナカラシムヘシ

第十五條 車掌、運轉手、轉轍紙、信號人及電線路番人ノ服制ヲ定メ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十六條 信號人及電線路番人ヲ配置スヘキ場所ヲ定メ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十七條 車掌、運轉手ヲ雇入ムトスルトキハ其族籍、住所、氏名、生年月日ヲ記シ居住地所屬警察官署ヲ經テ警視廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ但シ運轉手ニ係ルトキハ其ノ履歷書ヲ添附スヘシ

第十八條 車掌、運轉手本則ニ違背シ又就業上不適當ト認メタルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ(ろ)

第十九條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ警視廳ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ場合ハ免許證ノ書換若ハ再下附ヲ受ケ第三號乃至五號ノ場合ハ免許證ヲ返納スヘシ(ろ)

一 營業者ノ住所、氏名ヲ變更シ又ハ會社ノ所在地、社名、社則、定款、代表者及其ノ氏名ヲ變更シタルトキ

二 車掌、運轉手ノ免許證ヲ亡失、毀損シ若ハ其ノ證面記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ文字不分明ニ爲リタルトキ

三 車掌、運轉手ヲ解雇シタルトキ

四 車掌、運轉手死亡シ若ハ所在不明ニ爲リタルトキ

五 車掌、運轉手ノ免許ヲ取消サレタルトキ

第二十條 電車運轉上ヨリ生シタル危険ノ事故ハ直ニ其ノ顧末ヲ具シ發生地ノ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十一條 營業者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ願届書ニハ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第三章 車掌、運轉手等ニ對スル規定

第二十二條 車掌、運轉手、轉轍手、信號人及電線路番人ハ就業中ハ制服ヲ着用スヘシ

第二十三條 轉轍手、信號人及電線路番人ハ濫ニ受持場所ヲ離ルヘカラス

第二十四條 車掌及運轉手ノ就業中免許證ヲ携帯シ警察官吏ノ求メアリタルトキハ之ヲ示スヘシ

第二十五條ノ一 車掌及運轉手ハ如何ナル場合ト雖其ノ免許證ヲ有セサル者ニ自己ノ職務ヲ委託スヘカラス(イ)

第二十五條ノ二 車掌ハ發車前車掌運轉手ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ客車内ニ掲クヘシ(ウ)

第二十五條ノ三 車掌ハ發車前第八條ノ標札ヲ掲ケ並其ノ標燈及第十一條ノ燈火ヲ點スヘシ(エ)

第二十六條 車掌及運轉手ハ乗客並公衆ニ對シ懇切ニ接遇シ侮慢ノ行爲ヲ爲スヘカラス

老幼者又ハ婦女乗降ノトキハ特ニ保護スヘシ

第二十七條ノ一 車掌及運轉手ハ公衆ニ對シ乗車ヲ勸誘スル爲呼聲ヲ爲シ又ハ行車中喫煙ヲ爲スヘカラス(ウ)

第二十七條ノ二 停留場ニ在リテハ停車スヘシ 但シ乗車又ハ降車スル者ナキ場合、此ノ限ニ在ラス(イ)

第二十八條 停留場以外ニ於テハ別段ノ規定アル場合ノ外停車スルコトヲ得ス(イ)

第二十九條 運轉手臺ニハ客ヲ乗載スヘカラス

第三十條 定員外ノ人員ヲ乗載スヘカラス

第三十一條 乗客定員ニ達シタルトキハ車掌ハ滿員札ヲ掲クヘシ

第三十二條 乗客ノ乘リ終リ又降り終リタル後ニ非サレハ行車ノ信號ヲ發スヘカラス

第三十三條 車掌ハ第四條乃至第四十四條ニ掲クル事項ヲ監視シ若シ違背シタル者アルトキハ之ヲ制止シ尙肯セサルトキハ乗車ヲ拒絕スヘシ其ノ職務上ニ於ケル正當ノ請求ニ應セサル者アルトキ亦同シ

第三十四條 運轉手ハ如何ナル場合ト雖運轉手臺ヲ離ルヘカラス 但シ己ムコトヲ得

スシテ其ノ位置ヲ離ルルトキハ制御機ノ把手ヲ外シ之ヲ携帯スヘシ

第三十五條 運轉手ハ定數外ノ車輛ヲ連結シテ行車スヘカラス 但シ單行車ニ在リテ

故障ヲ生シタル電車ヲ牽引シ又ハ之ヲ推進スル場合ハ此ノ限ニ在ラス(ウ)

第三十六條 運轉手ハ制限ノ速度ヲ超過シ行車スヘカラス 但シ制限内ト雖道路ノ

又部、街角、橋上、阪路、曲線部又ハ往來雜沓ノ場所竝ニ他ノ電車ト行違ヲ爲サムトス

ルトキハ音響器ヲ鳴シ特ニ徐行スシ(ろ)

第三十七條 車馬及歩行者カ電車ノ前路ヲ通行シ又ハ電車ニ接近シタルトキハ運轉手

ハ音響器ヲ鳴シ特ニ徐行シ又ハ停車スヘシ

第三十七條 運轉手ハ行車中各車間ニ相當ノ距離ヲ保ツヘシ